

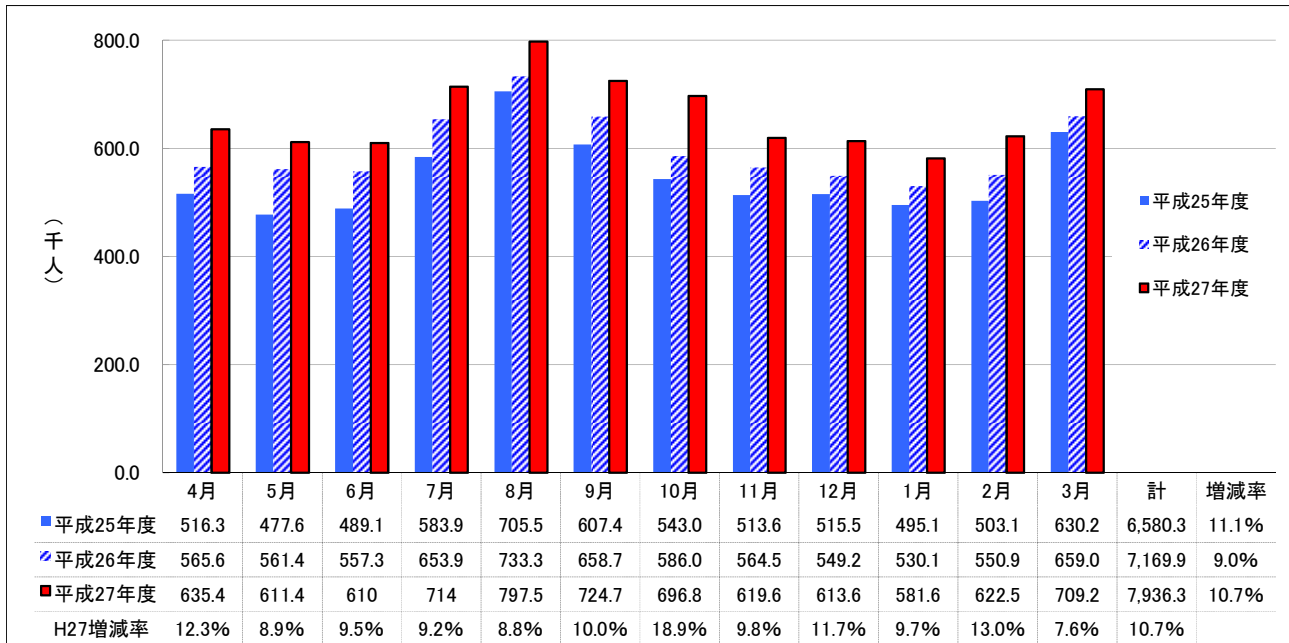
平成 27 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課

平成 28 年 4 月発表

平成 27 年度の観光客数は、793 万 6,300 人で過去最高
対前年度（H26）比 +76 万 6,400 人、+10.7%

■月別入域観光客数の推移（平成 25 年度～平成 27 年度）



■平成 27 年度の概況（総括）

平成 27 年度の入域観光客数は 793 万 6,300 人で、対前年度比で 76 万 6,400 人、率にして 10.7% の増加となり、3 年連続で国内客・外国客ともに過去最高を更新、800 万人に届く勢いとなった。

また、前年度に続き、月別では、全ての月において前年同月を上回るとともに、各月の過去最高記録を更新した。

前年度と比べて増加した要因は次の通りと考えられ、特に外国客の増加が大きく寄与している。

○年度全体として円安傾向であったことに伴う国内および訪日旅行需要増

○海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増による外国人観光客の大幅増

○国内外における官民上げての継続したプロモーション活動

■平成 28 年度の見通し

景気は緩やかな回復基調にあることや、各航空会社による航空路線の拡充があることから、国内観光地との競合が想定されるものの、国内旅行市場は堅調に推移するとみられる。

また、外国客については、東アジアの主要国・地域において航空路線拡充の動きがあることや、クルーズ船の寄港回数が昨年を大幅に上回る予定となっていることなどから、引き続き、好調に推移するものと見込まれる。

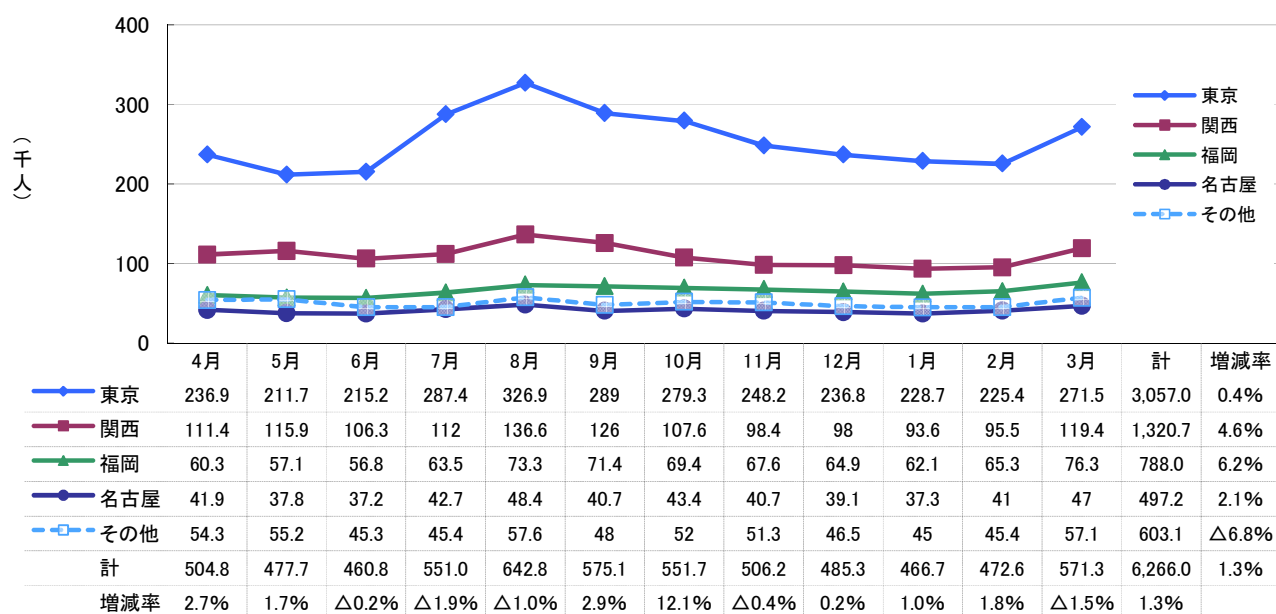
秋には、大規模な学術会議や、第 6 回世界のウチナーンチュ大会が予定されており、国内外からの誘客効果が期待出来る。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

平成 27 年度の国内客は、626 万 6,000 人で、対前年度比で 8 万 2,100 人、率にして 1.3%の増加となり、過去最高となった。これまでの国内客の過去最高の入込は、平成 26 年度の 618 万 3,900 人。

■平成 27 年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

平成 27 年度は夏場の数回にわたる台風の影響があったものの、景気回復基調が継続し、全体として国内旅行需要は堅調に推移した。国内観光地との競合が懸念されたが、羽田－石垣や福岡－那覇路線の拡充や、関西方面が好調であったこと、成田及び名古屋－那覇路線の新規就航を含む LCC を中心とした航空路線の拡充などにより、前年度を上回った。

【方面別の動向】

東京方面 成田路線の入込は減少したものの、羽田－石垣路線において提供座席数が増加したことなどにより羽田方面で好調を維持し、前年度並みとなった。

関西方面 LCC を中心とした関西－那覇路線の入込増が全体を押し上げるとともに、数年ぶりに再開した関西－宮古路線が好調であったことなどから、前年度を上回った。

福岡方面 福岡－那覇路線において提供座席数が増加したことなどにより、入込客数が好調を維持し、前年度を上回った。増加率は主要方面で最も高かった。

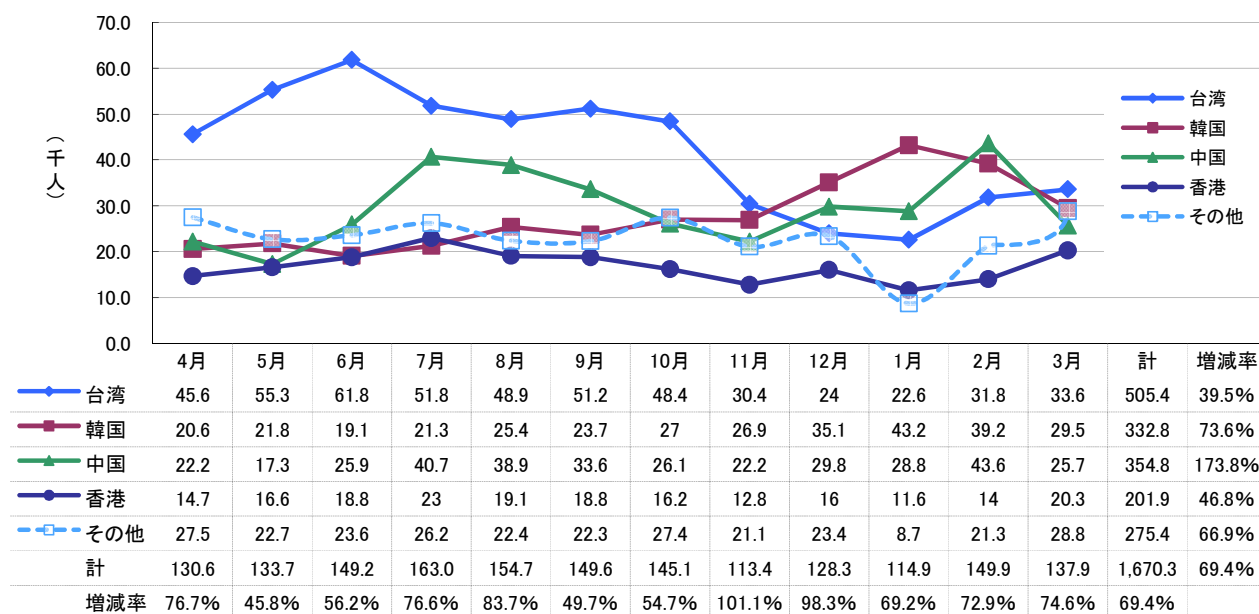
名古屋方面 LCC 等の名古屋－那覇路線の新規就航などにより全体の入込客数は堅調に推移し、前年度を上回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

平成 27 年度の外国客は、167 万 300 人で、対前年度比で 68 万 4,300 人、率にして 69.4%の増加となり、国内客同様過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成 26 年度の 98 万 6,000 人。

■平成 27 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

平成 27 年度は全体として円安傾向であったことに伴い、訪日旅行需要が高かったことに加え、重点市場（台湾、韓国、中国、香港）において路線の新規就航および既存路線の増便があり、空路客が増加した。

また、クルーズ船の例年より長い運航期間と寄港回数増により、海路客も大幅に増加した。

【国籍別の動向】

台湾 台北-那覇路線の増便やL C Cの新規就航に加え、クルーズ船寄港回数の増加により、空路・海路客ともに増加、過去最高を更新し、初の 50 万人台となった。

韓国 ピーチアビエーションや韓国 L C C 3 社の相次ぐ新規就航などにより航空路線が拡充し、空路客を中心に増加、過去最高を更新し、初の 30 万人台となった。

中国本土 天津や杭州などの相次ぐ新規路線の就航や、中国発クルーズ船の増加により、空路・海路客ともに増加、初の 30 万人台を記録し、台湾に次ぐ入込となった。

香港 既存の航空路線の拡充や、香港発クルーズ船の寄港などにより、空路・海路客ともに増加、過去最高を更新し、初の 20 万人台となった。

平成27年（2015）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、63万5,400人
対前年（H26）同月比 +6万9,800人、+12.3%
～外国客が単月の過去最高を更新、初の10万人台～

入域状況

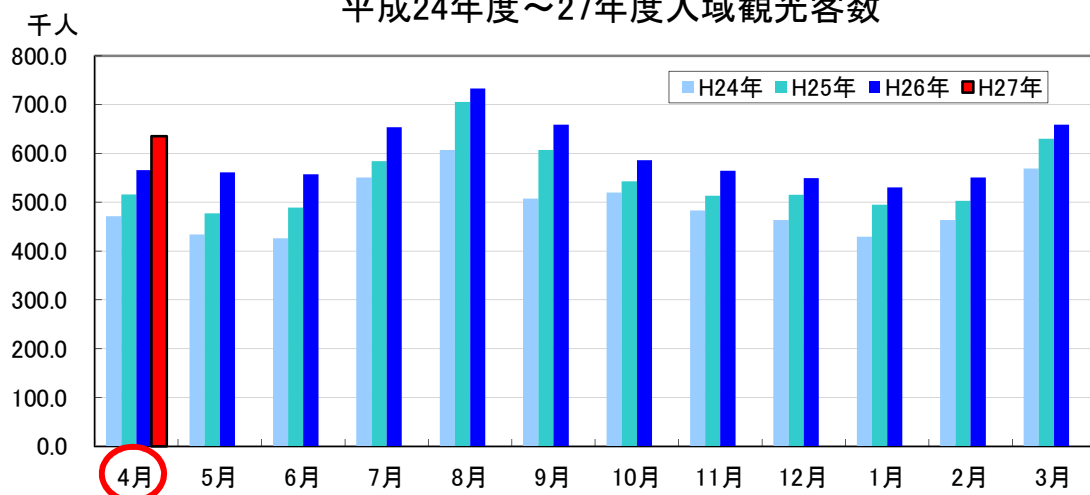
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	504,800 人	491,700 人	+ 13,100人	+ 2.7%	79.4%
外国客	130,600 人	73,900 人	+ 56,700人	+ 76.7%	20.6%
合計	635,400 人	565,600 人	+ 69,800人	+ 12.3%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	504,800 人	491,700 人	+ 13,100人	+ 2.7%	81.9%
外国客	111,200 人	63,100 人	+ 48,100人	+ 76.2%	18.1%
合計	616,000 人	554,800 人	+ 61,200人	+ 11.0%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、東京、関西、福岡方面を中心に好調に推移し、LCCを中心とした航空路線の拡充や、名古屋路線初のLCC新規就航等もあり、前年度を上回った。

5月は、台風6号の影響で欠航等があったものの、日並びの良かった連休後半の旅行商品の販売が好調だったことや、修学旅行が増加するシーズンでもあり、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

4月は、台湾、韓国、中国、香港において、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路ともに好調に推移し、単月の過去最高記録を更新した。特に韓国と中国の伸びが顕著であった。

5月も、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加する見込みとなっていることから空路・海路ともに増加が期待されており、順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	236,900 人	231,700 人	+ 5,200人	+ 2.2%	46.9%
関西方面	111,400 人	104,600 人	+ 6,800人	+ 6.5%	22.1%
福岡方面	60,300 人	54,900 人	+ 5,400人	+ 9.8%	11.9%
名古屋	41,900 人	42,200 人	△ 300人	△ 0.7%	8.3%
その他	54,300 人	58,300 人	△ 4,000人	△ 6.9%	10.8%
合計	504,800 人	491,700 人	+ 13,100人	+ 2.7%	100.0%

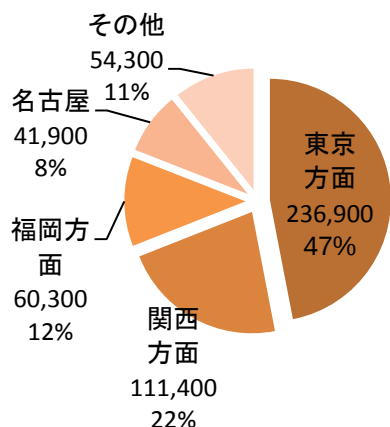
※国内海路客2,500人を含む(鹿児島1,800人、関西100人、横浜600人)

外国客 国籍別入域状況

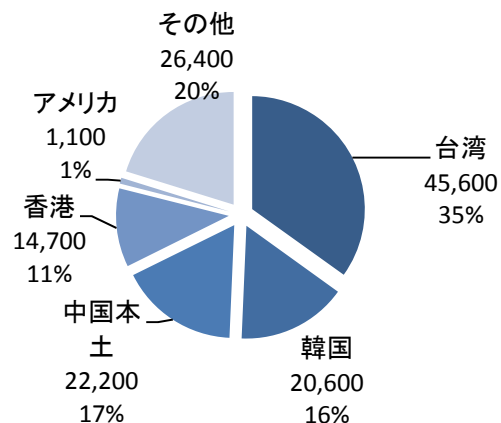
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	45,600 人	45,600 人	30,700 人	+ 14,900人	+48.5%	34.9%
韓国	20,600 人	20,600 人	9,800 人	+ 10,800人	+110.2%	15.8%
中国本土	22,200 人	22,200 人	5,600 人	+ 16,600人	+296.4%	17.0%
香港	14,700 人	14,700 人	10,700 人	+ 4,000人	+37.4%	11.3%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	2,200 人	△ 1,100人	△50.0%	0.8%
その他	26,400 人	7,000 人	14,900 人	+ 11,500人	+77.2%	20.2%
合計	130,600 人	111,200 人	73,900 人	+ 56,700人	+76.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	26,500 人	26,500 人	+33.8%	32.2%	19,100 人	19,100 人	+75.2%	39.5%
韓国	20,600 人	20,600 人	+110.2%	25.0%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	15,300 人	15,300 人	+173.2%	18.6%	6,900 人	6,900 人	皆増	14.3%
香港	14,500 人	14,500 人	+35.5%	17.6%	200 人	200 人	皆増	0.4%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+42.9%	1.2%	100 人	100 人	△93.3%	0.2%
その他	4,400 人	4,300 人	+22.2%	5.3%	22,000 人	2,700 人	+94.7%	45.5%
合計	82,300 人	82,200 人	+63.9%	100.0%	48,300 人	29,000 人	+103.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、成田路線からの入込は減少したものの、羽田路線は好調に推移し、前年同月に比べて増加し、前年度を上回った。
5月は、台風6号の影響で欠航等があったものの、日並びの良かった連休後半の旅行商品の販売が好調だったことや、羽田を中心とした航空路線の拡充等により、好調に推移する見込み。

大阪

4月は、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便等により、関西空港を中心に入込が順調に増加し、前年度を上回った。
5月以降は、連休及び5月後半までの旅行商品が好調となっていること、6月からANAの関西－宮古路線の再開による離島方面の増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

福岡

4月は、2月からのスカイマークの福岡－那覇路線の減便が終了し、前年同月に比べて全体の提供座席数が増加したこと等により、前年度を上回った。
5月は、連休のパッケージ旅行が好調となっていること、ANAの福岡－石垣路線の運航再開による離島方面の増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

名古屋

4月は、名古屋路線初のLCCとしてジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線が新規就航したものの、2月からのスカイマークの減便の影響等から、前年度を下回った。
5月以降は、連休を中心に宮古島へのチャーターツアーが行われたことや、各旅行社の旅行商品が好調であること、7月からANAの名古屋－那覇路線の増便が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

台湾

4月は、各航空会社の航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、空路・海路ともに増加し、前年度を上回った。
5月以降も、クルーズ船の前年度を上回る寄港回数の見通しや、航空路線の拡充も予定されており、夏場に向けて空路・海路ともに順調に増加する見込み。

韓国

4月は、旅客船沈没事故から1年の旅行自粛ムードが懸念されたが、前年同月に比べて航空路線が大幅に拡充した影響等により、前年度に比べて倍増した。
5月は、2つの連休の旅行商品の販売状況が好調となっていること、4年ぶりの済州島－那覇間のチャーター便やチャータークルーズの予約が好調なこと等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

4月は、前年同月に比べて天津航空の天津－那覇路線や定期チャーター（西安－那覇）等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
5月以降は、5月（労働節）や6月（端午節）の連休による旅行需要の高まりや、航空路線の拡充による空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

4月は、前年同月に比べて中国東方航空の上海－那覇路線の増便や定期チャーター（杭州－那覇）等による航空路線の拡充から空路客が増加したことや、上海発クルーズ船の寄港による海路客の増加により、前年度を上回った。
5月以降は、6月から上海吉祥航空の上海－那覇路線の増便等により、航空路線が拡充することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。

香港

4月は、4月前半の連休による旅行需要や、香港ドラゴン航空の香港－那覇路線の増便等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
5月以降は、夏場に向けた旅行商品の充実や、航空路線の拡充による好影響が継続することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。

平成27年（2015）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、61万1,400人
対前年（H26）同月比 +5万0,000人、+8.9%
～5月の過去最高を記録、外国客は単月の過去最高を更新～

入域状況

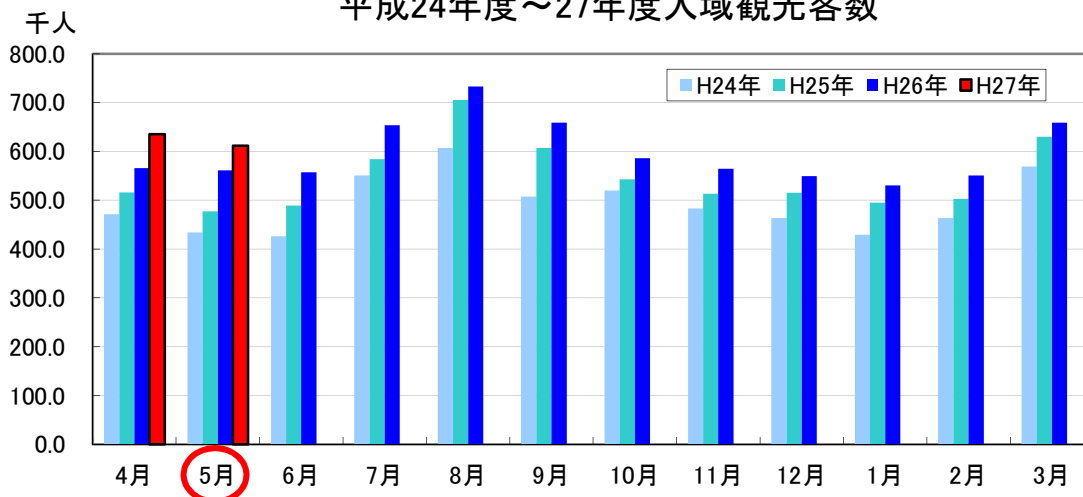
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	477,700 人	469,700 人	+ 8,000人	+ 1.7%	78.1%
外国客	133,700 人	91,700 人	+ 42,000人	+ 45.8%	21.9%
合計	611,400 人	561,400 人	+ 50,000人	+ 8.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	477,700 人	469,700 人	+ 8,000人	+ 1.7%	80.4%
外国客	116,600 人	76,400 人	+ 40,200人	+ 52.6%	19.6%
合計	594,300 人	546,100 人	+ 48,200人	+ 8.8%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、台風6号の影響で欠航があったものの、主要方面において、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移し、LCCを中心とした航空路線の拡充等により、前年度を上回った。

6月は、例年ボトム期に当たることもあり、旅行商品等の予約状況はやや鈍くなっているが、関西－宮古間、福岡－石垣間等の再開による離島方面の増加や、例年より早い梅雨明けによる駆け込み需要も期待できることから、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路ともに好調に推移し、2ヶ月連続で単月の過去最高記録を更新した。特に中国と韓国の伸びが顕著であった。

6月も、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加する見込みとなっていることから空路・海路客ともに増加が期待されており、順調に増加する見込み。

ロシアからのチャーターツアーが予定されており、主要方面以外からの入込も期待される。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	211,700 人	204,000 人	+ 7,700人	+ 3.8%	44.3%
関西方面	115,900 人	114,300 人	+ 1,600人	+ 1.4%	24.3%
福岡方面	57,100 人	55,400 人	+ 1,700人	+ 3.1%	12.0%
名古屋	37,800 人	35,300 人	+ 2,500人	+ 7.1%	7.9%
その他	55,200 人	60,700 人	△ 5,500人	△ 9.1%	11.6%
合計	477,700 人	469,700 人	+ 8,000人	+ 1.7%	100.0%

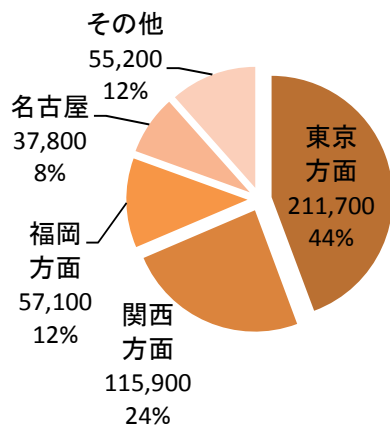
※国内海路客7,300人を含む(鹿児島3,100人、東京500人、その他3,700人)

外国客 国籍別入域状況

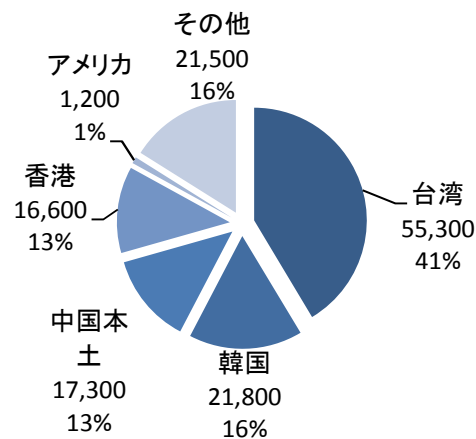
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	55,300 人	55,300 人	41,800 人	+ 13,500人	+32.3%	41.4%
韓国	21,800 人	21,800 人	10,200 人	+ 11,600人	+113.7%	16.3%
中国本土	17,300 人	17,300 人	7,900 人	+ 9,400人	+119.0%	12.9%
香港	16,600 人	16,600 人	12,200 人	+ 4,400人	+36.1%	12.4%
アメリカ	1,200 人	1,200 人	800 人	+ 400人	+50.0%	0.9%
その他	21,500 人	4,400 人	18,800 人	+ 2,700人	+14.4%	16.1%
合計	133,700 人	116,600 人	91,700 人	+ 42,000人	+45.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	30,900 人	30,900 人	+30.4%	34.5%	24,400 人	24,400 人	+34.8%	55.3%
韓国	20,000 人	20,000 人	+119.8%	22.3%	1,800 人	1,800 人	+63.6%	4.1%
中国本土	17,300 人	17,300 人	+268.1%	19.3%	0 人	0 人	—	0.0%
香港	16,600 人	16,600 人	+37.2%	18.5%	0 人	0 人	—	0.0%
アメリカ	900 人	900 人	+28.6%	1.0%	300 人	300 人	+200.0%	0.7%
その他	3,900 人	3,800 人	+21.9%	4.4%	17,600 人	600 人	+12.8%	39.9%
合計	89,600 人	89,500 人	+67.5%	100.0%	44,100 人	27,100 人	+15.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、台風6号の影響で欠航があったものの、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移し、前年度を上回った。

6月以降は、「ふるさと旅行券」制度を活用した各方面との競合による影響等が懸念されるが、引き続き、羽田を中心とした航空路線の拡充等により、堅調に推移する見込み。

大阪

5月は、前月に引き続き、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便やピーチ・アビエーションの関西－那覇路線の入込が増加したこと、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年度を上回った。

6月は、ANAの関西－宮古路線の再開による離島方面の増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

福岡

5月は、台風6号の影響で欠航があったものの、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移し、前年同月に比べて航空路線が拡充したことにより、前年度を上回った。

6月以降は、旅行商品の販売で一部、前年に比べて苦戦している状況が見られるものの、ANAの福岡－那覇路線の増便や、福岡－石垣路線の運航再開による離島方面の増加が期待されることから、堅調に推移する見込み。

名古屋

5月は、前月に引き続き、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線新規就航の影響や、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年度を上回った。

6月以降は、引き続き、LCCの予約状況が好調であること、7月からANAの名古屋－那覇路線の増便が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

台湾

5月は、各航空会社の路線拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回った。

6月以降も、クルーズ船の前年度を上回る寄港回数の見通しや、タイガーエア台湾の台北－那覇路線の新規就航等、航空路線の拡充も予定されており、夏場に向けて空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

韓国

5月は、引き続き、前年同月に比べて航空路線が大幅に拡充したことや、済州島－那覇間のチャーター便や韓国発チャータークルーズが好調だったことにより、前年度に比べて倍増した。

6月以降は、中東呼吸器症候群(MERS)の影響による旅行自粛ムードも懸念されるが、夏場に向けて予約状況が好調となっていることから、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

5月は、労働節の連休による旅行需要の高まりに加え、前年同月に比べて天津－那覇路線や定期チャーター(西安－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。

6月以降は、6月の端午節の連休による旅行需要の高まりや、7月から航空路線の拡充による空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

5月は、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便や定期チャーター(杭州－那覇)等による航空路線が拡充したことから空路客が増加し、前年度を上回った。

6月以降は、6月後半から上海吉祥航空の上海－那覇路線の増便や、7月から中国東方航空の福州－那覇路線の新規就航等により、航空路線が拡充することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。

香港

5月は、引き続き、前年同月に比べて香港ドラゴン航空の香港－那覇路線の増便等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。

6月以降は、ピーチ・アビエーションの香港－那覇路線の増便や、香港発のクルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

平成27年（2015）6月 入域観光客数概況

6月の観光客数は、61万0,000人
対前年（H26）同月比 +5万2,700人、+9.5%
～6月の過去最高、外国客は3ヶ月連続で単月過去最高を更新～

入域状況

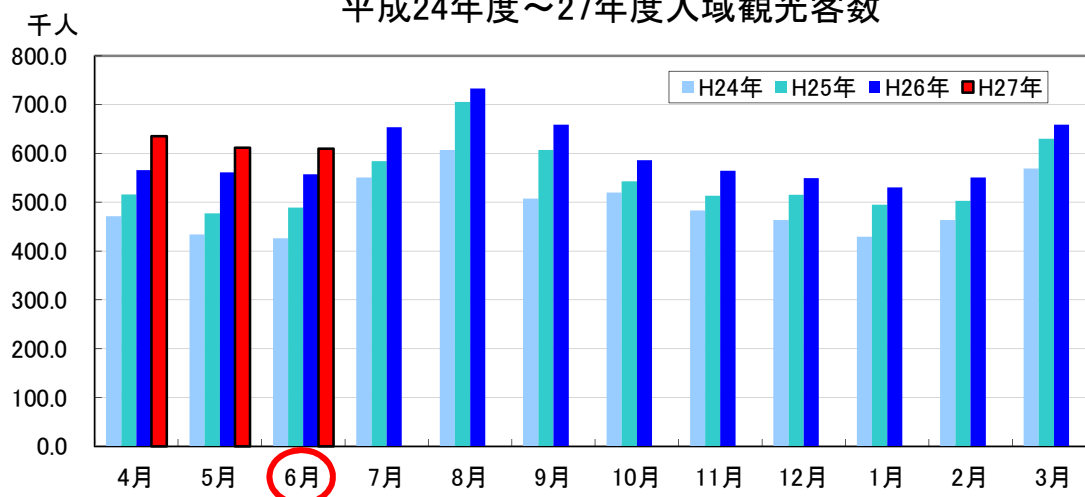
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	460,800 人	461,800 人	△ 1,000人	△ 0.2%	75.5%
外国客	149,200 人	95,500 人	+ 53,700人	+ 56.2%	24.5%
合計	610,000 人	557,300 人	+ 52,700人	+ 9.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	460,800 人	461,800 人	△ 1,000人	△ 0.2%	77.7%
外国客	132,400 人	83,700 人	+ 48,700人	+ 58.2%	22.3%
合計	593,200 人	545,500 人	+ 47,700人	+ 8.7%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、LCCを中心に好調に推移したものの、東京及び名古屋方面において旅行商品の販売等が一部、伸び悩んだことなどから、前年度をやや下回った。

7月は、台風の影響が懸念されるが、夏場の旅行需要の高まりに向けた夏期増便や機材の大型化等による各航空路線の拡充や、所得環境の改善による需要も期待できることから堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数的大幅な増加により、空路・海路ともに好調に推移し、3ヶ月連続で単月の過去最高記録を更新した。特に中国の伸びが顕著であった。

7月は、国内同様、台風の影響が懸念されるが、中国本土の3都市からの新規就航が相次ぐこと等による航空路線の拡充や、後半の宮古島・平良港への定期クルーズ船の就航を含む寄港回数の増により、空路・海路客ともに増加が期待されることから、順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	215,200 人	220,100 人	△ 4,900人	△ 2.2%	46.7%
関西方面	106,300 人	100,000 人	+ 6,300人	+ 6.3%	23.1%
福岡方面	56,800 人	55,700 人	+ 1,100人	+ 2.0%	12.3%
名古屋	37,200 人	37,500 人	△ 300人	△ 0.8%	8.1%
その他	45,300 人	48,500 人	△ 3,200人	△ 6.6%	9.8%
合計	460,800 人	461,800 人	△ 1,000人	△ 0.2%	100.0%

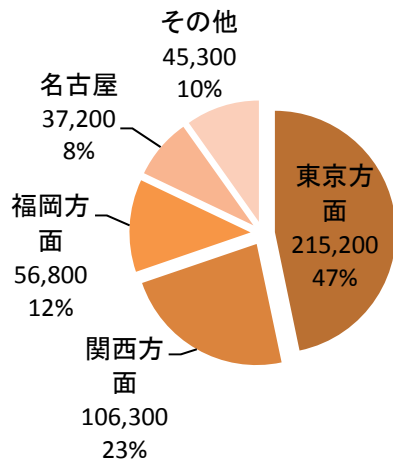
※国内海路客3,600人を含む(鹿児島1,900人、関西100人、その他1,600人)

外国客 国籍別入域状況

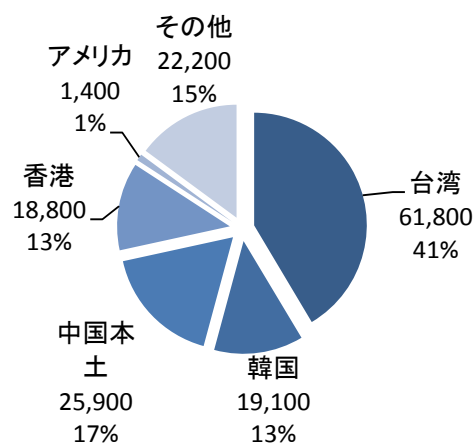
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	61,800 人	61,800 人	41,200 人	+ 20,600人	+50.0%	41.4%
韓国	19,100 人	19,100 人	11,400 人	+ 7,700人	+67.5%	12.8%
中国本土	25,900 人	25,900 人	11,800 人	+ 14,100人	+119.5%	17.4%
香港	18,800 人	18,800 人	13,900 人	+ 4,900人	+35.3%	12.6%
アメリカ	1,400 人	1,400 人	900 人	+ 500人	+55.6%	0.9%
その他	22,200 人	5,400 人	16,300 人	+ 5,900人	+36.2%	14.9%
合計	149,200 人	132,400 人	95,500 人	+ 53,700人	+56.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	39,900 人	39,900 人	+34.3%	38.7%	21,900 人	21,900 人	+90.4%	47.4%
韓国	19,000 人	19,000 人	+66.7%	18.4%	100 人	100 人	皆増	0.2%
中国本土	19,800 人	19,800 人	+135.7%	19.2%	6,100 人	6,100 人	+79.4%	13.2%
香港	18,600 人	18,600 人	+33.8%	18.1%	200 人	200 人	皆増	0.4%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	+37.5%	1.1%	300 人	300 人	+200.0%	0.6%
その他	4,600 人	4,600 人	+2.2%	4.5%	17,600 人	800 人	+49.2%	38.1%
合計	103,000 人	103,000 人	+49.9%	100.0%	46,200 人	29,400 人	+72.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、羽田－石垣路線等、離島方面は好調を維持したものの、全体としては前年並みか微減傾向となり、前年度を下回った。
7月以降は、台風や各方面との競合による影響が懸念されるが、ANAの深夜便を含めた各航空会社による航空路線の拡充や、沖縄方面の夏休み旅行人気等により、堅調に推移する見込み。

大阪

6月は、再開したANAの関西－宮古路線が好調だったことや、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便やピーチ・アビエーションの関西方面の入込が増加したこと等から、前年度を上回った。
7月以降は、台風の影響が懸念されるが、各航空会社による夏場の航空路線の拡充や、今後、駆け込みでの需要も期待されることから、堅調に推移する見込み。

福岡

6月は、前年同月に比べてピーチ・アビエーションの福岡－那覇路線等の航空路線拡充や、例年より早い梅雨明けによる、駆け込み需要の増加等により、前年度を上回った。
7月以降は、台風の影響が懸念されるが、旅行商品の販売状況がファミリー層を中心に好調に推移していることや、日並びの良いシルバーウィークの需要増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

名古屋

6月は、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線による航空路線の拡充があったものの、旅行商品の販売が一部苦戦していること等から、前年度をやや下回った。
7月以降は、台風や各方面との競合による影響が懸念されるが、ANA、スカイマークによる夏場の増便が予定されていること、各旅行会社による夏休み後半の旅行需要獲得に向けた商品販売の強化等から、堅調に推移する見込み。

台湾

6月は、華信航空の台中－那覇路線の増便や、クルーズ船の寄港回数が大幅に増加したこと等から、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回った。
7月以降は、台風の影響で航空便やクルーズ船に一部、欠航が生じたものの、タイガーエア台湾の台北－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充等から、空路客を中心に順調に増加する見込み。

韓国

6月は、中東呼吸器症候群(MERS)の影響もあり、一部、予約のキャンセルが生じたが、若年層や個人客の多いLCCを中心に堅調に推移したことや、前年同月に比べて航空路線が大幅に拡充したことなどから、前年度を上回った。
7月以降は、ジンエアーによる夏場の増便や、9月にはピーチ・アビエーションのソウル－那覇路線の新規就航が予定されていること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

6月は、端午節の連休による旅行需要の高まりに加え、前年同月に比べて定期チャーター(西安－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
7月以降は、夏場の旅行需要の高まりや、中国国際航空の北京－那覇路線の増便、天津－那覇路線の新規就航による航空路線の拡充等により、空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

6月は、上海吉祥航空の上海－那覇路線の増便や、前年同月に比べて定期チャーター(杭州－那覇)による航空路線が拡充したことから空路客を中心に増加し、前年度を上回った。
7月は、中国東方航空の福州及び杭州－那覇路線の新規就航や、宮古島・平良港への定期クルーズ船の就航予定等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

6月は、引き続き、前年同月に比べて香港ドラゴン航空、ピーチ・アビエーションの香港－那覇路線の増便による航空路線の拡充から、空路客が増加し、前年度を上回った。
7月以降は、航空路線の拡充や香港発のクルーズ船の寄港が予定されていること、また、旅行商品の販売も好調となっていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

平成27年（2015）7月 入域観光客数概況

7月の観光客数は、71万4,000人
対前年（H26）同月比 +6万0,100人、+9.2%
～7月の過去最高、中国客は初の単月4万人超～

入域状況

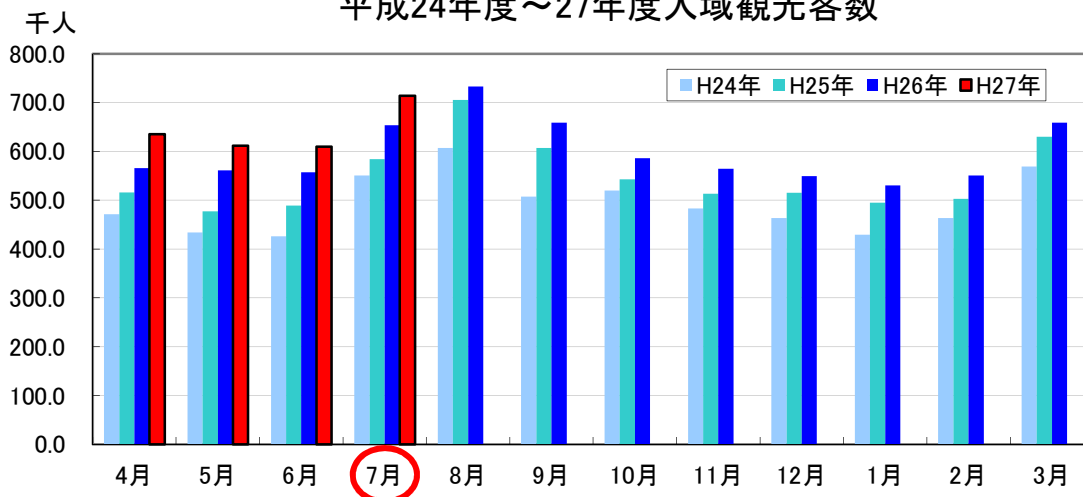
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	551,000 人	561,600 人	△ 10,600人	△ 1.9%	77.2%
外国客	163,000 人	92,300 人	+ 70,700人	+ 76.6%	22.8%
合計	714,000 人	653,900 人	+ 60,100人	+ 9.2%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	551,000 人	561,600 人	△ 10,600人	△ 1.9%	79.3%
外国客	143,600 人	81,400 人	+ 62,200人	+ 76.4%	20.7%
合計	694,600 人	643,000 人	+ 51,600人	+ 8.0%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

7月は、三度にわたって来襲した台風による影響や、9月のシルバーウィーク等への旅行時期の分散化により、東京・大阪・名古屋方面において旅行商品の販売等が一部、伸び悩んだことなどから、前年度を下回った。

8月以降は、各航空会社の航空路線の拡充や、9月のシルバーウィーク予約状況の好調による混み合いを避けた振替需要等も期待できることから堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

7月は、台風の影響が懸念されたものの、中国本土の3都市からの相次ぐ新規就航を含む航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の大幅な増加により、空路・海路ともに好調に推移し、4ヶ月連続で単月の過去最高記録を更新した。特に中国客は単月で初めて4万人を超えた。

8月は、夏休みの旅行需要に加え、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の大幅な増加が予定されており、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	287,400 人	292,700 人	△ 5,300人	△ 1.8%	52.2%
関西方面	112,000 人	113,100 人	△ 1,100人	△ 1.0%	20.3%
福岡方面	63,500 人	61,500 人	+ 2,000人	+ 3.3%	11.5%
名古屋	42,700 人	44,900 人	△ 2,200人	△ 4.9%	7.7%
その他	45,400 人	49,400 人	△ 4,000人	△ 8.1%	8.2%
合計	551,000 人	561,600 人	△ 10,600人	△ 1.9%	100.0%

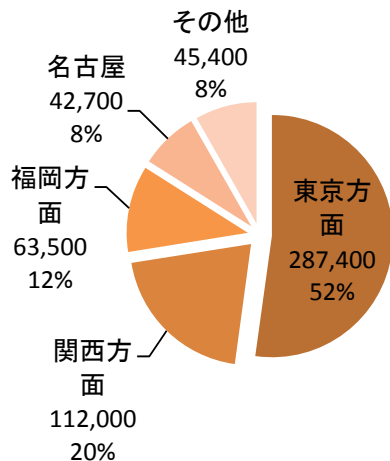
※国内海路客1,800人を含む(鹿児島1,800人)

外国客 国籍別入域状況

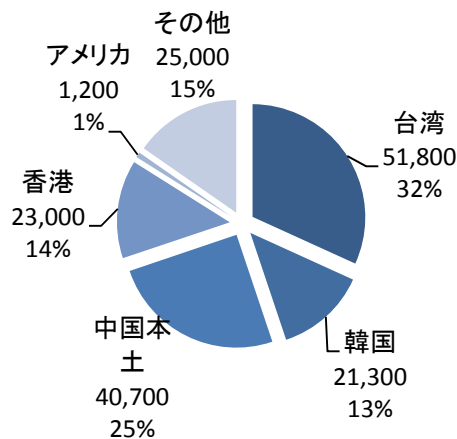
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	51,800 人	51,800 人	39,200 人	+ 12,600人	+32.1%	31.8%
韓国	21,300 人	21,300 人	10,200 人	+ 11,100人	+108.8%	13.1%
中国本土	40,700 人	40,700 人	15,200 人	+ 25,500人	+167.8%	25.0%
香港	23,000 人	23,000 人	12,800 人	+ 10,200人	+79.7%	14.1%
アメリカ	1,200 人	1,200 人	800 人	+ 400人	+50.0%	0.7%
その他	25,000 人	5,600 人	14,100 人	+ 10,900人	+77.3%	15.3%
合計	163,000 人	143,600 人	92,300 人	+ 70,700人	+76.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	37,600 人	37,600 人	+28.8%	35.6%	14,200 人	14,200 人	+42.0%	24.7%
韓国	21,300 人	21,300 人	+108.8%	20.2%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	22,200 人	22,200 人	+146.7%	21.0%	18,500 人	18,500 人	+198.4%	32.2%
香港	19,200 人	19,200 人	+51.2%	18.2%	3,800 人	3,800 人	+3700.0%	6.6%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+25.0%	0.9%	200 人	200 人	皆増	0.3%
その他	4,200 人	4,200 人	+35.5%	4.0%	20,800 人	1,400 人	+89.1%	36.2%
合計	105,500 人	105,500 人	+62.3%	100.0%	57,500 人	38,100 人	+110.6%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、羽田－石垣路線等、離島方面は好調を維持したものの、上旬と下旬に来襲した台風による影響もあり、前年度を下回った。
8月以降は、各方面との競合による影響が懸念されるが、各航空会社による航空路線の拡充や、9月のシルバーウィーク等の予約が好調となっていることから、堅調に推移する見込み。

大阪

7月は、関西－宮古路線や関西－那覇の一部路線は好調を維持したものの、9月のシルバーウィーク等による旅行時期の分散化や、台風の影響もあり、前年度を下回った。
8月以降は、お盆休みを中心に好調に推移し、9月のシルバーウィークの予約状況の好調による混み合いを避けた振替需要等も期待されることから、堅調に推移する見込み。

福岡

7月は、各航空会社による航空路線の拡充や、各旅行社による旅行商品の販売がファミリー層を中心に好調だったこと等により、前年度を上回った。
8月以降は、引き続き、各航空会社による航空路線の拡充や、9月のシルバーウィークを中心に旅行商品の販売状況が好調に推移していること、旅行時期の分散による駆け込み需要等も期待されることから、好調に推移する見込み。

名古屋

7月は、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線による航空路線の拡充はあるものの、上旬と中旬に来襲した台風による影響もあり、前年度を下回った。
8月以降は、各方面との競合による影響が懸念されるが、ANA、スカイマークによる夏場の増便や、各旅行会社による旅行需要獲得に向けた商品販売を展開中であることから、堅調に推移する見込み。

台湾

7月は、台風の影響で航空便やクルーズ船に一部、欠航が生じたものの、タイガーエア台湾の台北－那覇路線の新規就航や、大型クルーズ船の寄港等により、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回った。
8月以降は、引き続き、航空路線の拡充等から、空路客を中心に順調に増加する見込み。

韓国

7月は、台風の影響で航空便に一部、欠航が生じたものの、ジンエアーによる夏場の増便含む航空路線の拡充などから、前年度を上回った。
8月以降は、夏休みの旅行需要も好調に推移していることや、9月にはピーチ・アビエーションのソウル－那覇路線の新規就航が予定されていること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

7月は、中国国際航空の北京－那覇路線の増便や、天津－那覇の新規就航等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
8月以降は、ファミリーや個人旅行を中心に旅行需要が高まっていることや、引き続き、航空路線の拡充等により、空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

7月は、中国東方航空の福州及び杭州－那覇路線の新規就航や、上海及び厦門発クルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路客ともに、前年度を上回った。
8月以降は、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増加が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

7月は、引き続き、前年同月に比べて香港ドラゴン航空、ピーチ・アビエーションの香港－那覇路線の増便による航空路線の拡充や、香港発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回った。
8月以降は、引き続き、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 川上(カワカミ) TEL 098-866-2763

平成27年（2015）8月 入域観光客数概況

8月の観光客数は、79万7,500人
対前年（H26）同月比 +6万4,200人、+8.8%
～単月の過去最高を更新、3年連続70万人超～

入域状況

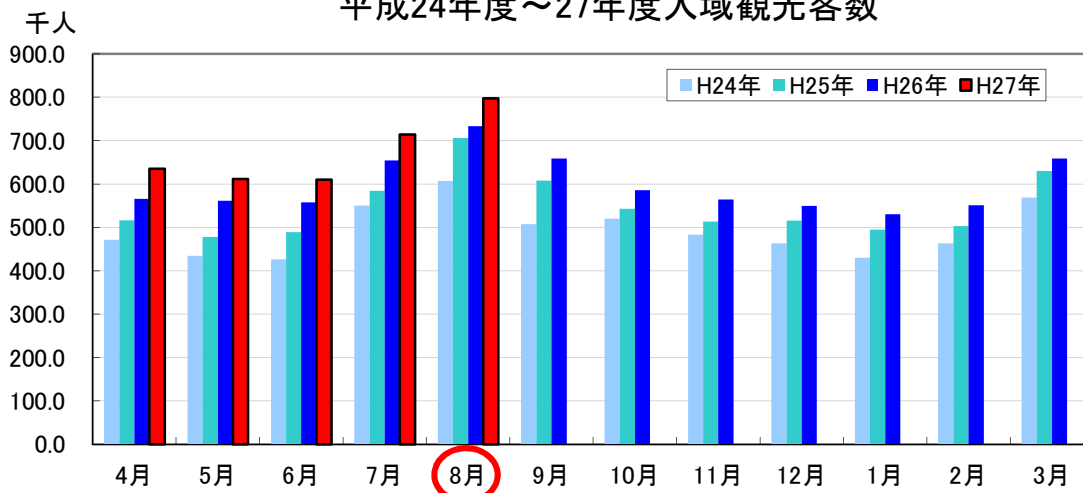
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	642,800 人	649,100 人	△ 6,300人	△ 1.0%	80.6%
外国客	154,700 人	84,200 人	+ 70,500人	+ 83.7%	19.4%
合計	797,500 人	733,300 人	+ 64,200人	+ 8.8%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	642,800 人	649,100 人	△ 6,300人	△ 1.0%	82.2%
外国客	139,400 人	73,600 人	+ 65,800人	+ 89.4%	17.8%
合計	782,200 人	722,700 人	+ 59,500人	+ 8.2%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、お盆休み期間を中心に、深夜便等を含めて好調を維持したものの、下旬の大型台風による影響が大きかったことや、各方面との競合等により、前年をやや下回った。

9月以降は、引き続き、各航空会社の航空路線の拡充や、9月のシルバーウィーク予約状況が各方面ともに好調であることから堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

8月は、夏休みの旅行需要や、夏場の増便を含む航空路線の拡充、アジア最大級のクルーズ船「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」の初寄港を含むクルーズ船の寄港回数の増加により、空路・海路ともに好調に推移し、前年を上回った。特に中国と韓国の伸びが顕著であった。

9月以降は、中秋節等の連休による旅行需要が見込まれる中、引き続き、クルーズ船の寄港回数の増加予定や、韓国から離島へのチャーター便の運航を含む航空路線の拡充が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	326,900 人	335,600 人	△ 8,700人	△ 2.6%	50.9%
関西方面	136,600 人	131,100 人	+ 5,500人	+ 4.2%	21.3%
福岡方面	73,300 人	71,500 人	+ 1,800人	+ 2.5%	11.4%
名古屋	48,400 人	50,700 人	△ 2,300人	△ 4.5%	7.5%
その他	57,600 人	60,200 人	△ 2,600人	△ 4.3%	9.0%
合計	642,800 人	649,100 人	△ 6,300人	△ 1.0%	100.0%

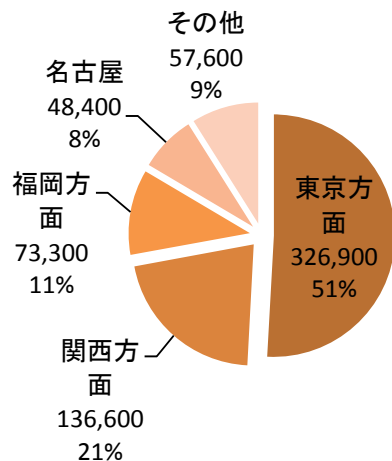
※国内海路客3,700人を含む(鹿児島3,600人、関西100人)

外国客 国籍別入域状況

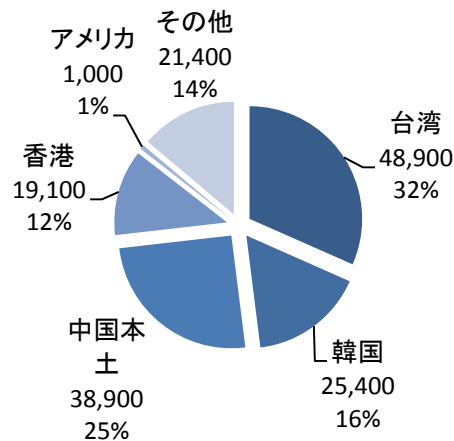
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	48,900 人	48,900 人	38,700 人	+ 10,200人	+26.4%	31.6%
韓国	25,400 人	25,400 人	10,000 人	+ 15,400人	+154.0%	16.4%
中国本土	38,900 人	38,900 人	9,600 人	+ 29,300人	+305.2%	25.1%
香港	19,100 人	19,100 人	11,000 人	+ 8,100人	+73.6%	12.3%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	700 人	+ 300人	+42.9%	0.6%
その他	21,400 人	6,100 人	14,200 人	+ 7,200人	+50.7%	13.8%
合計	154,700 人	139,400 人	84,200 人	+ 70,500人	+83.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	37,400 人	37,400 人	+52.7%	34.0%	11,500 人	11,500 人	△19.0%	25.7%
韓国	25,400 人	25,400 人	+154.0%	23.1%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	23,900 人	23,900 人	+149.0%	21.7%	15,000 人	15,000 人	皆増	33.6%
香港	16,800 人	16,800 人	+52.7%	15.3%	2,300 人	2,300 人	皆増	5.1%
アメリカ	900 人	900 人	+50.0%	0.8%	100 人	100 人	+0.0%	0.2%
その他	5,600 人	5,600 人	+51.4%	5.1%	15,800 人	500 人	+50.5%	35.3%
合計	110,000 人	110,000 人	+85.2%	100.0%	44,700 人	29,400 人	+80.2%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、お盆休み期間を中心に、深夜便等を含めて好調を維持したものの、下旬の台風によるキャンセル等の影響もあり、全体としては前年を下回った。
9月以降は、引き続き、各方面との競合が懸念されるが、シルバーウィークの予約状況が好調となっていることや、宿泊や離島旅行の助成を行うふさと旅行券事業による効果も期待できることから、堅調に推移する見込み。

大阪

8月は、台風による影響があったものの、各航空会社による航空路線の拡充や、一部、シルバーウィークからの振替需要などで好調に推移したこともあり、前年を上回った。
9月以降は、シルバーウィークを中心に予約状況が好調となっていることや、関西-石垣路線の入込増が期待できることから、好調に推移する見込み。

福岡

8月は、台風による影響があったものの、各航空会社による航空路線の拡充や、旅行商品がファミリー層を中心に好調であったこと等から、前年を上回った。
9月以降は、シルバーウィークの予約状況が好調となっていることや、九州地区のスポーツイベント開催等による需要もあることから、好調に推移する見込み。

名古屋

8月は、ジェットスター・ジャパンの名古屋-那覇路線等は好調を維持したものの、各方面との競合や、台風による影響が重なったこともあり、前年を下回った。
9月以降は、引き続き、各方面との競合が懸念されるが、シルバーウィークの予約状況が好調となっていることや、一部旅行会社による離島旅行商品の造成・販売等により、堅調に推移する見込み。

台湾

8月は、台風の影響で航空便やクルーズ船に一部、欠航が生じたものの、前年同月に比べて航空路線の拡充により、空路客を中心に増加し、前年を上回った。
9月以降は、引き続き、航空路線の拡充や、離島を含めた旅行商品が造成されていること等から、順調に増加する見込み。

韓国

8月は、ジンエアーによる夏場の増便含む航空路線の拡充や、夏休みの旅行需要も好調に推移したことから、前年を上回った。
9月は、ピーチ・アビエーションのソウル-那覇路線の新規就航やソウル-那覇、宮古及び石垣へ直行チャーター便含む航空路線の拡充、10月以降は韓国LCCによる新規就航が予定されていることから、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

8月は、引き続き、前年同月に比べて中国国際航空の北京-那覇路線の増便や、天津-那覇路線等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年を上回った。
9月以降は、中秋節・国慶節の連休による旅行需要や、引き続き、航空路線の拡充等により、空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

8月は、引き続き、前年同月に比べて上海-那覇路線の増便や、福州及び杭州-那覇路線等による航空路線の拡充、上海及び厦門発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに、前年を上回った。
9月以降は、航空路線の拡充に伴う旅行商品が増加傾向であることや、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

8月は、引き続き、前年同月に比べて香港ドラゴン航空、ピーチ・アビエーションの香港-那覇路線の増便による航空路線の拡充や、香港発クルーズ船の寄港、夏休みの旅行需要も好調に推移したことから、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
9月以降は、引き続き、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 川上(カワカミ) TEL 098-866-2763

平成27年（2015）9月 入域観光客数概況

9月の観光客数は、72万4,700人
対前年（H26）同月比 +6万6,000人、+10.0%
～3ヶ月連続で70万人超、9月の過去最高を記録～

入域状況

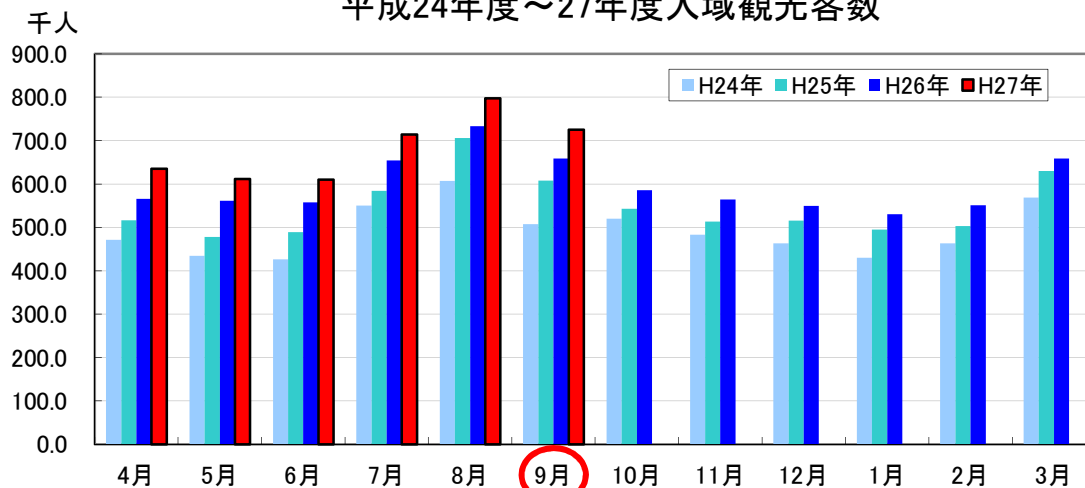
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	575,100 人	558,800 人	+ 16,300人	+ 2.9%	79.4%
外国客	149,600 人	99,900 人	+ 49,700人	+ 49.7%	20.6%
合計	724,700 人	658,700 人	+ 66,000人	+ 10.0%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	575,100 人	558,800 人	+ 16,300人	+ 2.9%	81.2%
外国客	132,800 人	84,700 人	+ 48,100人	+ 56.8%	18.8%
合計	707,900 人	643,500 人	+ 64,400人	+ 10.0%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、台風による影響があったものの、シルバーウィークにおける旅行需要の高まりにより、同期間を中心に各方面ともに好調に推移したことにより、前年を上回った。

10月以降は、引き続き、各航空会社の航空路線の拡充や、11月に福岡及び名古屋方面から離島への直行チャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

9月は、中秋節の連休による旅行需要の増に加えて、航空路線の拡充、クルーズ船の寄港回数の増加により、空路・海路ともに好調に推移し、前年を上回った。特に中国と韓国の伸びが顕著であった。

10月は、国慶節等の連休があるほか、クルーズ船の寄港回数の増加予定及び韓国のLCC2社による相次ぐ新規就航が予定されていることから、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。シンガポールからのチャーター便が予定されており、主要方面以外からの入込も期待できる。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	289,000 人	285,100 人	+ 3,900人	+ 1.4%	50.3%
関西方面	126,000 人	117,900 人	+ 8,100人	+ 6.9%	21.9%
福岡方面	71,400 人	65,400 人	+ 6,000人	+ 9.2%	12.4%
名古屋	40,700 人	40,500 人	+ 200人	+ 0.5%	7.1%
その他	48,000 人	49,900 人	△ 1,900人	△ 3.8%	8.3%
合計	575,100 人	558,800 人	+ 16,300人	+ 2.9%	100.0%

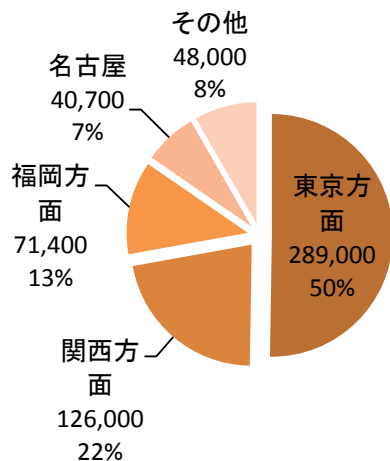
※国内海路客2,500人を含む(鹿児島2,500人)

外国客 国籍別入域状況

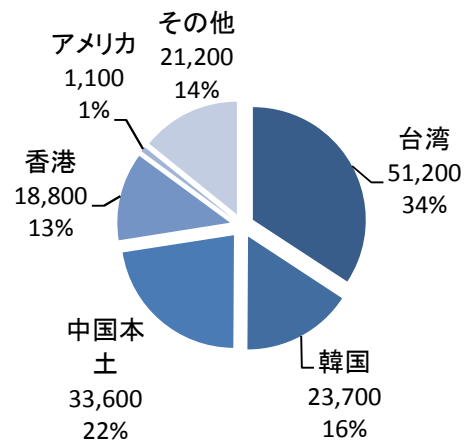
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	51,200 人	51,200 人	43,000 人	+ 8,200人	+19.1%	34.2%
韓国	23,700 人	23,700 人	11,000 人	+ 12,700人	+115.5%	15.8%
中国本土	33,600 人	33,600 人	12,600 人	+ 21,000人	+166.7%	22.5%
香港	18,800 人	18,800 人	13,000 人	+ 5,800人	+44.6%	12.6%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	900 人	+ 200人	+22.2%	0.7%
その他	21,200 人	4,400 人	19,400 人	+ 1,800人	+9.3%	14.2%
合計	149,600 人	132,800 人	99,900 人	+ 49,700人	+49.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	38,500 人	38,500 人	+44.2%	36.9%	12,700 人	12,700 人	△22.1%	28.0%
韓国	23,700 人	23,700 人	+117.4%	22.7%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	22,400 人	22,400 人	+166.7%	21.5%	11,200 人	11,200 人	+166.7%	24.7%
香港	14,900 人	14,900 人	+24.2%	14.3%	3,900 人	3,900 人	+290.0%	8.6%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+42.9%	1.0%	100 人	100 人	△50.0%	0.2%
その他	3,800 人	3,800 人	+18.8%	3.6%	17,400 人	600 人	+7.4%	38.4%
合計	104,300 人	104,300 人	+68.5%	100.0%	45,300 人	28,500 人	+19.2%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、台風による影響があったものの、羽田－石垣路線等で入込増となり、シルバーウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年を上回った。
10月以降は、各方面との競合が懸念されるが、ANAの羽田－石垣路線の期間増便が予定されていることや、旅行商品の予約状況が好調となっていること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

9月は、台風による影響があったものの、各航空会社による航空路線の拡充や、期間運航の関西－宮古路線が好調を維持し、シルバーウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年を上回った。
10月以降は、各方面との競合が懸念されるが、宿泊や離島旅行の助成を行うふさと旅行券事業の販売が開始され、誘客に期待できること等から、好調に推移する見込み。

福岡

9月は、ピーチアビエーションの福岡－那覇路線の増便を含む各航空会社による航空路線の拡充や、旅行商品がシルバーウィーク期間を中心に好調であったこと等から、前年を上回った。
10月以降は、引き続き、航空路線の拡充や、11月に福岡－宮古島への直行チャーター便が予定され、予約状況が好調となっていること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

9月は、各方面との競合が懸念されたものの、シルバーウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年をやや上回った。
10月以降は、引き続き、各方面との競合が懸念されるが、各旅行会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられ、11月に名古屋(小牧)－久米島への直行チャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

9月は、台風の影響で航空便やクルーズ船に一部、欠航が生じたものの、前年同月に比べて航空路線の拡充により、空路客を中心に増加し、前年を上回った。
10月以降は、国慶節の連休による旅行需要や、引き続き、航空路線の拡充や、例年より2ヶ月長い12月までのクルーズ船の寄港が予定されていること等から、順調に増加する見込み。

韓国

9月は、ピーチ・アビエーションのソウル－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充や、ソウル－那覇及び宮古島へのチャーター便の好調等により、前年を上回った。
10月以降は、ハングルの日の連休による旅行需要に加え、イースター航空のソウル－那覇路線やチェジュ航空の釜山－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充が予定されていることから、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

9月は、中秋節の連休による旅行需要の増に加え、前年同月に比べて北京－那覇路線の増便等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年を上回った。
10月以降は、国慶節の連休による旅行需要や、引き続き、航空路線の拡充や、天津地域からの旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

9月は、台風の影響でクルーズ船に一部、欠航が生じたものの、引き続き、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便等による航空路線の拡充、上海及び厦門発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
10月以降は、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

9月は、中秋節の連休による旅行需要の増に加え、前年同月に比べて香港－那覇路線の増便による航空路線の拡充や、香港発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
10月以降は、引き続き、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 川上(カワカミ) TEL 098-866-2763

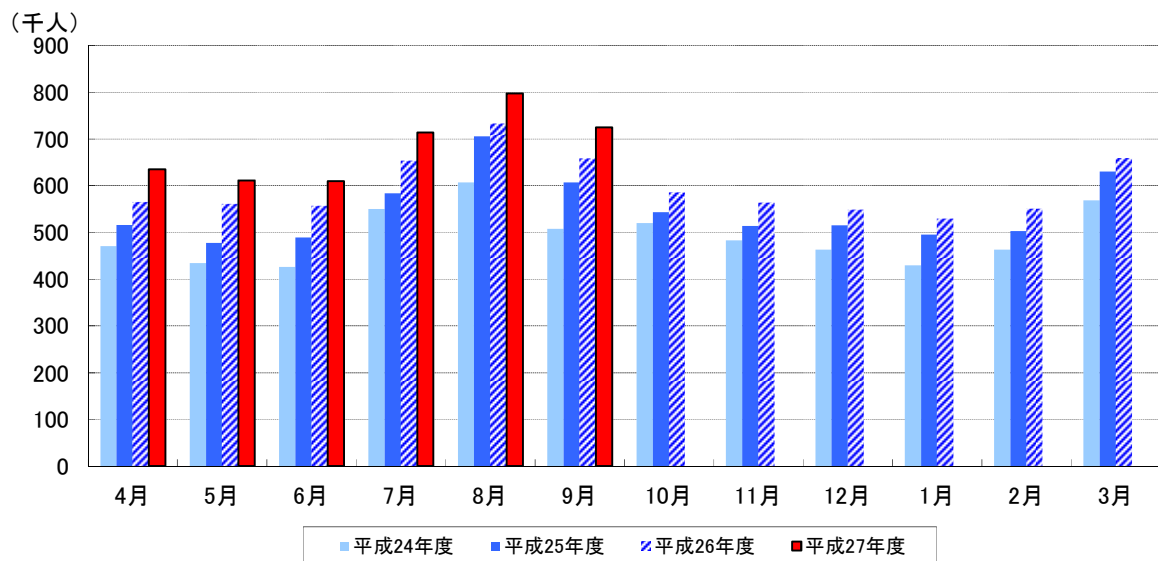
平成 27 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 27 年 10 月発表

平成 27 年度上半期は、409 万 3,000 人で過去最高を更新
対前年度 (H26) 比 +36 万 2,800 人、+9.7%

入域観光客数（国内＋外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 24 年度～平成 27 年度）



■平成 27 年度上半期入域観光客の状況（平成 26 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成27年度	635,400	611,400	610,000	714,000	797,500	724,700	4,093,000
平成26年度	565,600	561,400	557,300	653,900	733,300	658,700	3,730,200
増減数	69,800	50,000	52,700	60,100	64,200	66,000	362,800
増減率	12.3%	8.9%	9.5%	9.2%	8.8%	10.0%	9.7%

■平成 27 年度上半期の概況（総括）

平成 27 年度上半期の入域観光客数は、409 万 3,000 人となり、対前年同期比で 36 万 2,800 人増加、率にして 9.7%増となった。月別では、8 月に単月の過去最高を更新したほか、7 月・9 月でも初の 70 万人台を記録するなど好調に推移した。9 月までに 36 か月連続で対前年同月を上回るとともに、23 か月連続で当該月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 官民一体となった誘客プロモーションの効果
- 円安の継続による旅行需要増
- 海外航空路線の拡充及びクルーズ船の寄港回数の増

国内観光客についての動向

■平成 27 年度上半期国内観光客の状況（平成 26 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成27年度	504,800	477,700	460,800	551,000	642,800	575,100	3,212,200
平成26年度	491,700	469,700	461,800	561,600	649,100	558,800	3,192,700
増減数	13,100	8,000	-1,000	-10,600	-6,300	16,300	19,500
増減率	2.7%	1.7%	-0.2%	-1.9%	-1.0%	2.9%	0.6%

■国内観光客の概況

数回にわたる台風の影響で、夏場は前年をやや下回ったものの、LCC を中心とした航空路線の拡充や、関西－宮古路線の再開を含む離島方面への直行便が好調であったこと等から、関西及び福岡は好調、その他各方面も堅調に推移している。

下半期も、景気はゆるやかな回復基調にあり、円安傾向が持続すると予想されていることから、今後も堅調に推移することが期待できる。

外国人観光客についての動向

■平成 27 年度上半期外国人観光客の状況（平成 26 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成27年度	130,600	133,700	149,200	163,000	154,700	149,600	880,800
平成26年度	73,900	91,700	95,500	92,300	84,200	99,900	537,500
増減数	56,700	42,000	53,700	70,700	70,500	49,700	343,300
増減率	76.7%	45.8%	56.2%	76.6%	83.7%	49.7%	63.9%

■外国人観光客の概況

円安に伴う訪日旅行人気が継続していることに加え、沖縄発着航空路線が拡充（※）したことや、クルーズ船寄港回数が大幅に増加したことなどが、沖縄への入込増加の主な要因とみられ、4月から7月まで4ヶ月連続で単月の過去最高を上回る客数を更新した。方面別では、中国や韓国の伸びが顕著となっている。

下半期は、韓国におけるソウル・釜山－那覇路線の新規就航が予定されていることや、引き続き、クルーズ船の寄港回数増が予定されていることなどから、前年度以上の入込が期待できる。

※新規就航のあった路線：台北－那覇、ソウル－那覇、天津・福州・杭州－那覇路線

増便のあった路線：台北・台中・高雄－那覇、北京・上海－那覇、香港－那覇路線

平成27年（2015）10月 入域観光客数概況

10月の観光客数は、69万6,800人
対前年（H26）同月比 +11万800人、+18.9%
～10月の過去最高を記録、外国客は早くも前年度実績を上回る～

入域状況

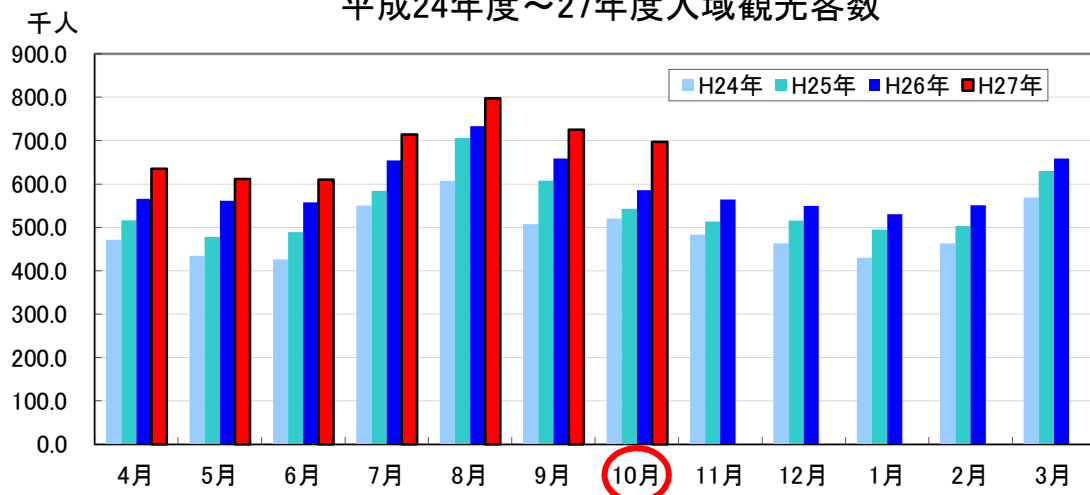
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	551,700 人	492,200 人	+ 59,500人	+ 12.1%	79.2%
外国客	145,100 人	93,800 人	+ 51,300人	+ 54.7%	20.8%
合計	696,800 人	586,000 人	+ 110,800人	+ 18.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	551,700 人	492,200 人	+ 59,500人	+ 12.1%	81.2%
外国客	127,800 人	81,500 人	+ 46,300人	+ 56.8%	18.8%
合計	679,500 人	573,700 人	+ 105,800人	+ 18.4%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、前年度2回来襲した台風の影響が無かったことや、修学旅行や企業の団体旅行が好調であったこと、各方面ともに旅行商品の販売状況が良好に推移したこと等から、前年を上回った。

11月は、各方面ともに旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられ、11月後半から福岡及び名古屋方面等から離島への直行チャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

10月は、国慶節等の連休による旅行需要の増に加えて、韓国のLCCの新規就航を含む航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増加により、空路・海路ともに好調に推移し、前年を上回った。また、4月からの累計で100万人を超え、早くも前年度の実績を上回った。

11月以降は、冬場のオフシーズンとなり、主要方面でもやや鈍化が見込まれるが、引き続き、クルーズ船の寄港回数の増加予定があることや、航空路線が大幅に拡充した韓国を中心に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	279,300 人	256,200 人	+ 23,100人	+ 9.0%	50.6%
関西方面	107,600 人	94,200 人	+ 13,400人	+ 14.2%	19.5%
福岡方面	69,400 人	57,400 人	+ 12,000人	+ 20.9%	12.6%
名古屋	43,400 人	37,300 人	+ 6,100人	+ 16.4%	7.9%
その他	52,000 人	47,100 人	+ 4,900人	+ 10.4%	9.4%
合計	551,700 人	492,200 人	+ 59,500人	+ 12.1%	100.0%

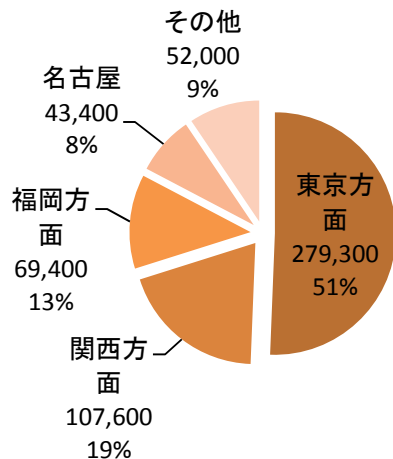
※国内海路客3,700人を含む(鹿児島2,200人、広島1,300人、大阪100人、神戸100人)

外国客 国籍別入域状況

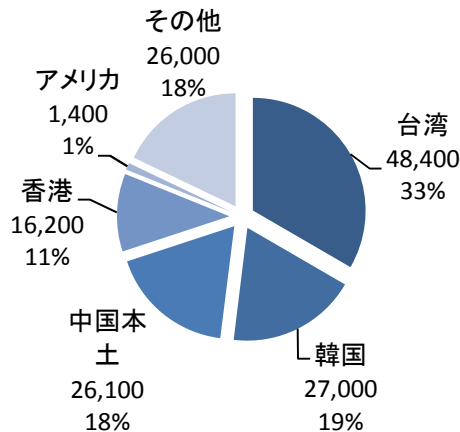
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	48,400 人	48,400 人	36,200 人	+ 12,200人	+33.7%	33.4%
韓国	27,000 人	27,000 人	13,100 人	+ 13,900人	+106.1%	18.6%
中国本土	26,100 人	26,100 人	12,400 人	+ 13,700人	+110.5%	18.0%
香港	16,200 人	16,200 人	11,000 人	+ 5,200人	+47.3%	11.2%
アメリカ	1,400 人	1,400 人	1,800 人	△ 400人	△22.2%	1.0%
その他	26,000 人	8,700 人	19,300 人	+ 6,700人	+34.7%	17.9%
合計	145,100 人	127,800 人	93,800 人	+ 51,300人	+54.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	36,500 人	36,500 人	+44.8%	35.3%	11,900 人	11,900 人	+8.2%	28.5%
韓国	26,900 人	26,900 人	+105.3%	26.0%	100 人	100 人	皆増	0.2%
中国本土	20,100 人	20,100 人	+148.1%	19.5%	6,000 人	6,000 人	+39.5%	14.4%
香港	13,900 人	13,900 人	+32.4%	13.5%	2,300 人	2,300 人	+360.0%	5.5%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	+37.5%	1.1%	300 人	300 人	△70.0%	0.7%
その他	4,800 人	4,800 人	+29.7%	4.6%	21,200 人	3,900 人	+35.9%	50.7%
合計	103,300 人	103,300 人	+68.2%	100.0%	41,800 人	24,500 人	+29.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、前年度2回来襲した台風の影響が無かったことや、羽田－那覇、羽田－石垣路線が入込増となり、旅行商品の販売が好調であったこと等から、前年を上回った。
11月以降は、スポーツイベント等による団体需要があること、羽田－石垣路線の期間増便や、旅行商品の予約状況が好調となっていること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

10月は、台風の影響が無かったことに加え、修学旅行等の団体旅行が好調であったこと、また、中旬の連休を中心に好調に推移したこと等から、前年を上回った。
11月以降は、各旅行会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられ、予約状況が好調となっていること等から、好調に推移する見込み。

福岡

10月は、台風の影響が無かったことに加え、前年同月に比べ、各航空会社による航空路線の拡充や、スポーツイベントを中心とした団体旅行や個人旅行ともに好調であったこと等から、前年を上回った。
11月以降は、離島を中心とした旅行商品の人気が高いことや、福岡－宮古島への直行チャーター便の予約状況が好調となっていること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

10月は、台風の影響が無かったことに加え、各旅行会社による旅行商品の販売状況が良く、修学旅行や企業の団体旅行が好調であったこと等から、前年を上回った。
11月以降は、各旅行会社及び航空会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられ、離島を中心に予約状況が好調となっていること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

10月は、台風の影響が無かったことに加え、クルーズ船の寄港回数増により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回ったことに加え、4月からの累計で、早くも前年度の実績を上回った。
11月以降は、例年より2ヶ月長い12月までのクルーズ船の寄港が予定されていること等から、海路客を中心に順調に増加する見込み。

韓国

10月は、ハングルの日の連休による旅行需要に加え、イースター航空のソウル－那覇路線やチェジュ航空の釜山－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充や、ソウル－那覇チャーター便の好調等により、前年を上回った。
11月以降は、ジンエアーの釜山－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充や、旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

10月は、上旬の国慶節の連休による旅行需要に加え、前年同月に比べて北京－那覇路線の増便等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年を上回った。
11月以降は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、各旅行会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

10月は、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便等による航空路線の拡充、上海及び厦門発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
11月以降は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

10月は、前年同月に比べて香港－那覇路線の増便による航空路線の拡充や、香港発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
11月以降は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充等から、空路客を中心に好調に推移する見込み。

平成27年（2015）11月 入域観光客数概況

11月の観光客数は、61万9,600人
対前年（H26）同月比 +5万5,100人、+9.8%
～11月までの累計で早くも前年実績を上回り過去最高を更新～

入域状況

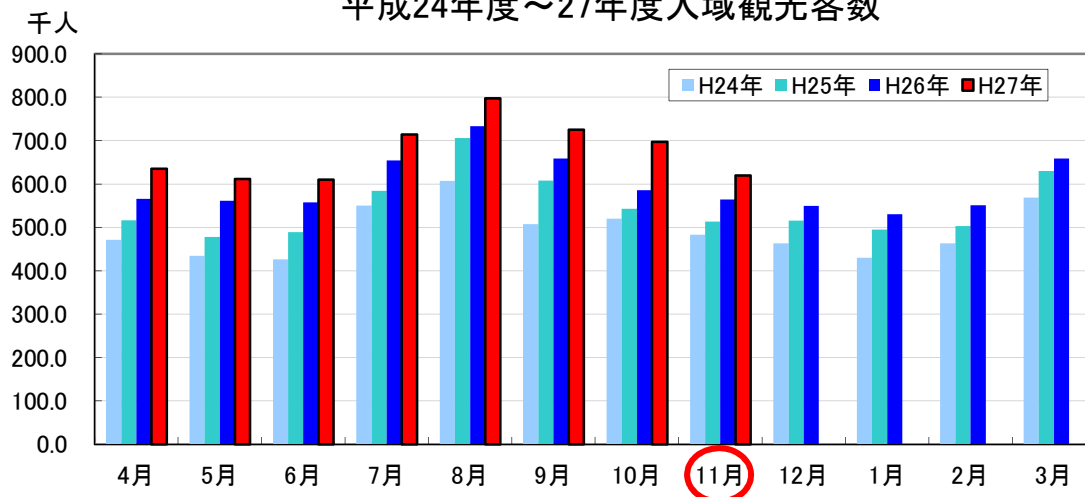
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	506,200 人	508,100 人	△ 1,900人	△ 0.4%	81.7%
外国客	113,400 人	56,400 人	+ 57,000人	+ 101.1%	18.3%
合計	619,600 人	564,500 人	+ 55,100人	+ 9.8%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	506,200 人	508,100 人	△ 1,900人	△ 0.4%	83.4%
外国客	101,000 人	54,900 人	+ 46,100人	+ 84.0%	16.6%
合計	607,200 人	563,000 人	+ 44,200人	+ 7.9%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、修学旅行が好調であったものの、全国的なふるさと旅行券事業の実施による各方面との競合による影響や、前年に比べて国内クルーズ船の寄港が少なかったため、海路客が減少したことから、前年を下回った。

12月は、引き続き、各方面との競合が懸念されるものの、各方面ともに旅行商品販売の取り組み強化がみられ、離島方面を中心に予約状況が好調となっていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

11月は、韓国のLCCの新規就航を含む航空路線の拡充や、例年10月までとなっていたクルーズ船の寄港があったこと等により、空路・海路ともに好調に推移し、前年の2倍の伸びとなった。

12月以降は、引き続き、クルーズ船の寄港予定があることや、航空路線が大幅に拡充した韓国を中心に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	248,200 人	249,200 人	△ 1,000人	△ 0.4%	49.0%
関西方面	98,400 人	94,800 人	+ 3,600人	+ 3.8%	19.4%
福岡方面	67,600 人	66,600 人	+ 1,000人	+ 1.5%	13.4%
名古屋	40,700 人	40,800 人	△ 100人	△ 0.2%	8.0%
その他	51,300 人	56,700 人	△ 5,400人	△ 9.5%	10.1%
合計	506,200 人	508,100 人	△ 1,900人	△ 0.4%	100.0%

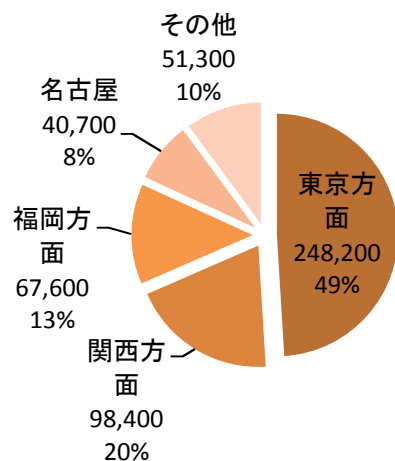
※国内海路客3,500人を含む(鹿児島2,100人、大阪100人、横浜1,300人)

外国客 国籍別入域状況

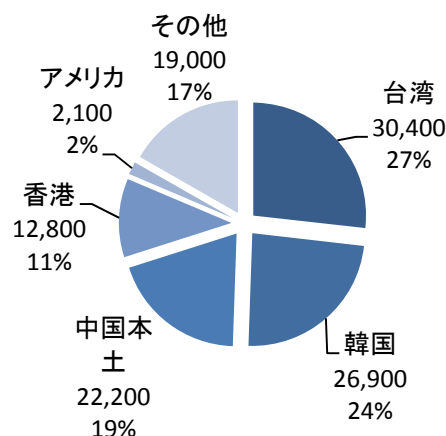
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	30,400 人	30,400 人	17,200 人	+ 13,200人	+76.7%	26.8%
韓国	26,900 人	26,900 人	15,100 人	+ 11,800人	+78.1%	23.7%
中国本土	22,200 人	22,200 人	7,300 人	+ 14,900人	+204.1%	19.6%
香港	12,800 人	12,800 人	9,100 人	+ 3,700人	+40.7%	11.3%
アメリカ	2,100 人	2,100 人	1,600 人	+ 500人	+31.3%	1.9%
その他	19,000 人	6,600 人	6,100 人	+ 12,900人	+211.5%	16.8%
合計	113,400 人	101,000 人	56,400 人	+ 57,000人	+101.1%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	21,300 人	21,300 人	+23.8%	26.5%	9,100 人	9,100 人	皆増	27.7%
韓国	26,900 人	26,900 人	+84.2%	33.4%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	12,900 人	12,900 人	+76.7%	16.0%	9,300 人	9,300 人	皆増	28.3%
香港	12,800 人	12,800 人	+40.7%	15.9%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	1,300 人	1,300 人	+44.4%	1.6%	800 人	800 人	+14.3%	2.4%
その他	5,300 人	5,300 人	+51.4%	6.6%	13,700 人	1,300 人	+426.9%	41.6%
合計	80,500 人	80,500 人	+53.0%	100.0%	32,900 人	20,500 人	+765.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、修学旅行は好調に推移したものの、羽田－那覇路線の座席数減や、全国的なふるさと旅行券事業の実施による各方面との競合による影響等から、前年を下回った。

12月以降は、引き続き、各方面との競合が懸念されるものの、羽田－石垣路線の期間増便や、スポーツイベント等による団体需要があること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

11月は、伊丹－那覇路線の拡充等や、各航空会社において、離島方面を中心に好調に推移したことから、前年を上回った。

12月以降は、引き続き、離島方面が好調なことや、各旅行会社による旅行商品の予約状況が好調となっていること等から、好調に推移する見込み。

福岡

11月は、各旅行会社による離島商品の販売が好調であったこと、福岡－宮古島への直行チャーター便も好調であったこと等から、前年を上回った。

12月以降は、スポーツイベント等による団体需要があることや、離島を中心とした旅行商品の予約状況が好調となっていること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

11月は、一部航空会社による団体旅行等が伸び悩んだことや、全国的なふるさと旅行券事業の実施による各方面との競合があったこと等から、前年をやや下回った。

12月以降は、ANAの名古屋－那覇路線の年末年始における期間増便があることや、各旅行会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

11月は、前年に比べて航空路線の拡充や、例年10月までとなっていたクルーズ船の寄港があったこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

12月以降は、引き続き、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、海路客を中心に順調に増加する見込み。

韓国

11月は、韓国LCC航空会社ジンエアーの釜山－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充や、企業やファミリー等の団体旅行が好調に推移したこと等により、前年を上回った。

12月以降は、引き続き、航空路線の拡充や、離島へのチャーター便が予定されていること、正月の連休などによる旅行需要が見込まれること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

11月は、中国のオフシーズンになるものの、前年同月に比べて航空路線が拡充したことにより、空路客を中心に増加し、前年を上回った。

12月以降は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、正月の連休などによる旅行需要が見込まれること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

11月は、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便等による航空路線の拡充や、上海発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

12月以降は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

11月は、前年同月に比べて香港－那覇路線の増便による航空路線が拡充したことにより、空路客を中心に増加し、前年を上回った。

12月以降は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

平成27年（2015）12月 入域観光客数概況

12月の観光客数は、61万3,600人
対前年（H26）同月比 +6万4,400人、+11.7%
～3年連続で暦年の過去最高を更新、初の770万人台～

入域状況

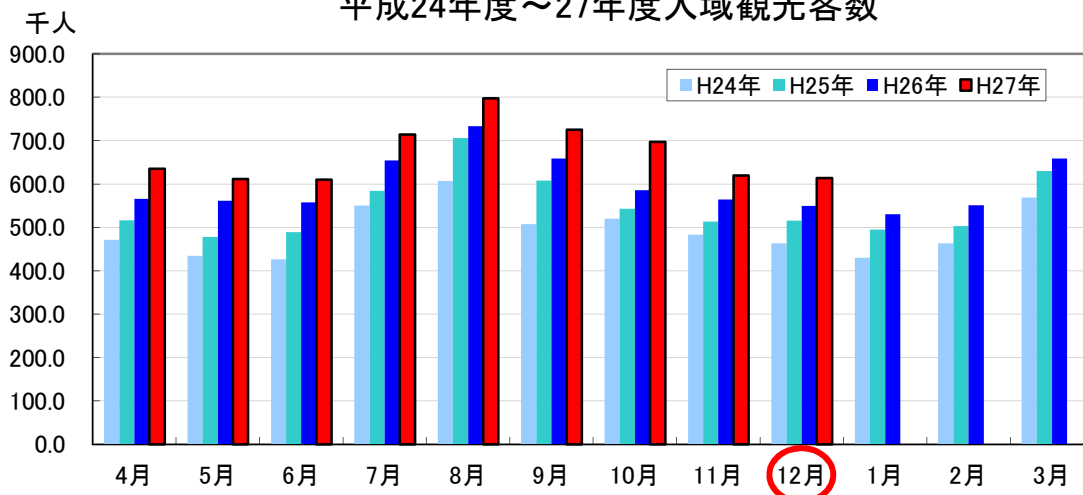
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	485,300 人	484,500 人	+ 800人	+ 0.2%	79.1%
外国客	128,300 人	64,700 人	+ 63,600人	+ 98.3%	20.9%
合計	613,600 人	549,200 人	+ 64,400人	+ 11.7%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	485,300 人	484,500 人	+ 800人	+ 0.2%	80.8%
外国客	115,200 人	64,200 人	+ 51,000人	+ 79.4%	19.2%
合計	600,500 人	548,700 人	+ 51,800人	+ 9.4%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、年末年始の日並びの関係で短い連休となったことによる影響や、各方面との競合等が懸念されたものの、LCCを中心に好調に推移したことから、前年をやや上回った。

1月以降は、引き続き、各方面との競合が懸念されるものの、各旅行会社による旅行商品の予約状況が好調となっていることや、2月にはLCCによる成田－那覇路線の新規就航が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

12月は、韓国LCCを中心とした航空路線の拡充や、例年10月までとなっていた定期クルーズ船の寄港があったこと等により、空路・海路ともに好調に推移し、2ヶ月連続で前年比約2倍の伸びとなった。

1月以降は、旧正月の旅行需要増に加えて、2月にはLCCによる台北－那覇路線の増便や、主要方面から春節時期の臨時便が予定されていること、クルーズ船の寄港予定が増加すること等から順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	236,800 人	240,200 人	△ 3,400人	△ 1.4%	48.8%
関西方面	98,000 人	93,800 人	+ 4,200人	+ 4.5%	20.2%
福岡方面	64,900 人	60,800 人	+ 4,100人	+ 6.7%	13.4%
名古屋	39,100 人	38,400 人	+ 700人	+ 1.8%	8.1%
その他	46,500 人	51,300 人	△ 4,800人	△ 9.4%	9.6%
合計	485,300 人	484,500 人	+ 800人	+ 0.2%	100.0%

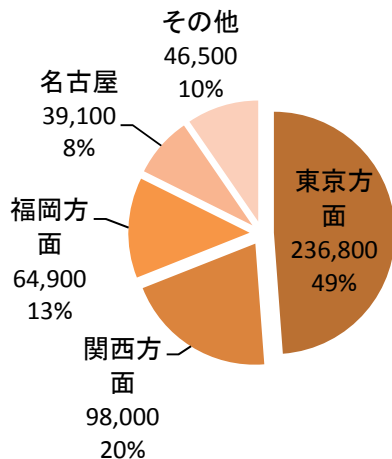
※国内海路客3,700人を含む(鹿児島2,200人、大阪100人、神戸500人、横浜900人)

外国客 国籍別入域状況

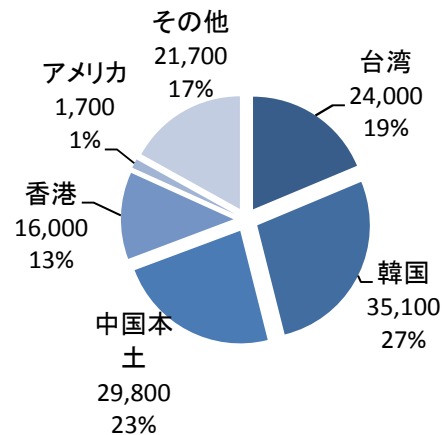
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	24,000 人	24,000 人	16,700 人	+ 7,300人	+43.7%	18.7%
韓国	35,100 人	35,100 人	23,900 人	+ 11,200人	+46.9%	27.4%
中国本土	29,800 人	29,800 人	7,400 人	+ 22,400人	+302.7%	23.2%
香港	16,000 人	16,000 人	10,100 人	+ 5,900人	+58.4%	12.5%
アメリカ	1,700 人	1,700 人	1,000 人	+ 700人	+70.0%	1.3%
その他	21,700 人	8,600 人	5,600 人	+ 16,100人	+287.5%	16.9%
合計	128,300 人	115,200 人	64,700 人	+ 63,600人	+98.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	17,900 人	17,900 人	+7.2%	19.9%	6,100 人	6,100 人	皆増	15.9%
韓国	35,100 人	35,100 人	+46.9%	39.0%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	14,900 人	14,900 人	+101.4%	16.6%	14,900 人	14,900 人	皆増	38.8%
香港	13,700 人	13,700 人	+35.6%	15.2%	2,300 人	2,300 人	皆増	6.0%
アメリカ	1,500 人	1,500 人	+50.0%	1.7%	200 人	200 人	皆増	0.5%
その他	6,800 人	6,800 人	+33.3%	7.6%	14,900 人	1,800 人	+2880.0%	38.8%
合計	89,900 人	89,900 人	+40.0%	100.0%	38,400 人	25,300 人	+7580.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、羽田－那覇路線の提供座席数減に加えて、年末年始の日並びの関係で短い連休となった影響や、各方面との競合等から、前年を下回った。
1月以降は、各方面との競合が懸念されるものの、引き続き、羽田－石垣路線の期間増便や、2月にピーチアビエーションによる成田－那覇路線の新規就航が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

12月は、ANAによる伊丹－那覇路線の拡充等や、一部LCCを中心に好調に推移したことから、前年を上回った。
1月以降は、各旅行会社による旅行商品の予約状況が好調となっていること等から、引き続き、好調に推移する見込み。

福岡

12月は、LCCによる福岡－那覇路線の期間増便や、一部団体旅行が好調であったこと等から、前年を上回った。
1月以降は、離島を中心とした旅行商品の予約状況が好調となっていること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

12月は、年末年始が短い連休となった影響や、旅行商品の販売が伸び悩んだものの、年末に宮古島直行チャーター便があったことや、LCCを中心に好調に推移したことから、前年を上回った。
1月以降は、航空会社による旅行商品の販売状況が好調なことや、各旅行会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化がみられること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

12月は、前年に比べて航空路線の拡充や、例年10月までとなっていた定期クルーズ船の寄港があったこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
1月以降は、2月の春節時期の旅行需要の増に加えて、ピーチアビエーションによる台北－那覇路線の増便や、クルーズ船の寄港が予定されていることから、海路客を中心に順調に増加する見込み。

韓国

12月は、前年同月に比べてソウル及び釜山－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充や、年末年始の旅行需要等により、前年を上回った。
1月以降は、2月の旧正月や春休み等の旅行需要増に加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、離島へのチャーター便が予定されていること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

12月は、前年同月に比べて航空路線が拡充したことや、旅行商品の販売状況が好調であったこと等により、空路客を中心に増加し、前年を上回った。
1月以降は、2月の春節時期の旅行需要増に加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、春節時期の旅行商品の販売状況が好調であること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

12月は、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便等による航空路線の拡充や、上海発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
1月以降は、2月の春節時期の旅行需要増に加えて、個人旅行需要が好調となっていること、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

12月は、前年同月に比べて航空路線が拡充したことや、香港発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
1月以降は、2月の春節時期の旅行需要増に加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、コスタクルーズ社による香港発クルーズ船の初寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 川上(カワカミ) TEL 098-866-2763

平成28年（2016）1月 入域観光客数概況

1月の観光客数は、58万1,600人
対前年（H27）同月比 +5万1,500人、+9.7%
～1月の過去最高を更新、韓国客は単月初の4万人超～

入域状況

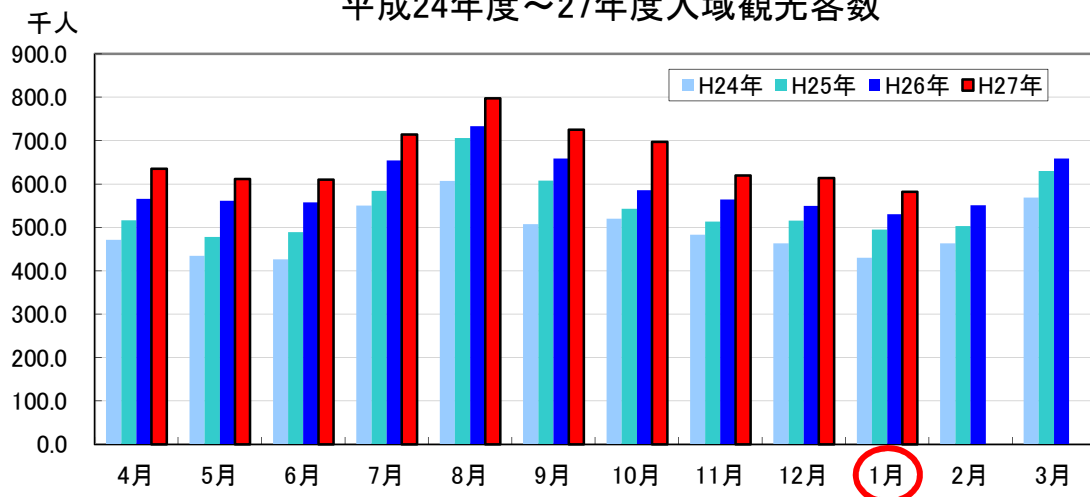
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	466,700 人	462,200 人	+ 4,500人	+ 1.0%	80.2%
外国客	114,900 人	67,900 人	+ 47,000人	+ 69.2%	19.8%
合計	581,600 人	530,100 人	+ 51,500人	+ 9.7%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	466,700 人	462,200 人	+ 4,500人	+ 1.0%	80.8%
外国客	110,600 人	67,500 人	+ 43,100人	+ 63.9%	19.2%
合計	577,300 人	529,700 人	+ 47,600人	+ 9.0%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

1月は、年末年始の日並びの関係で短い連休となったことによる影響があったものの、成人の日を含む三連休が好調だったことや、各旅行会社主催によるイベント等があったことから、前年を上回った。

2月以降は、各旅行会社による旅行商品の予約状況が良好なことや、2月下旬にはLCCによる成田ー那覇路線の新規就航が予定されていること、2月から3月にかけて離島直行チャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

1月は、韓国の新規航空会社による不定期便を含む航空路線の拡充や、例年閑散期となる中でのクルーズ船の寄港があったこと等により、空路・海路ともに好調に推移し、前年を上回った。

2月は、主要方面から春節・旧正月の旅行需要増に伴う臨時便やチャーター便が予定されていることに加えて、下旬にはLCCによる台北ー那覇路線の増便や、引き続き、クルーズ船の寄港回数が増加する予定となっていることから空路・海路ともに順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	228,700 人	226,100 人	+ 2,600人	+ 1.1%	49.0%
関西方面	93,600 人	89,500 人	+ 4,100人	+ 4.6%	20.1%
福岡方面	62,100 人	61,100 人	+ 1,000人	+ 1.6%	13.3%
名古屋	37,300 人	36,200 人	+ 1,100人	+ 3.0%	8.0%
その他	45,000 人	49,300 人	△ 4,300人	△ 8.7%	9.6%
合計	466,700 人	462,200 人	+ 4,500人	+ 1.0%	100.0%

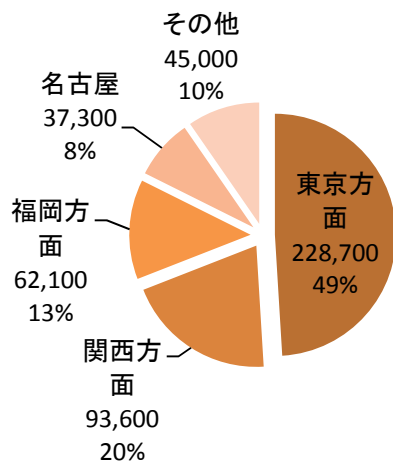
※国内海路客2,500人を含む(鹿児島2,500人)

外国客 国籍別入域状況

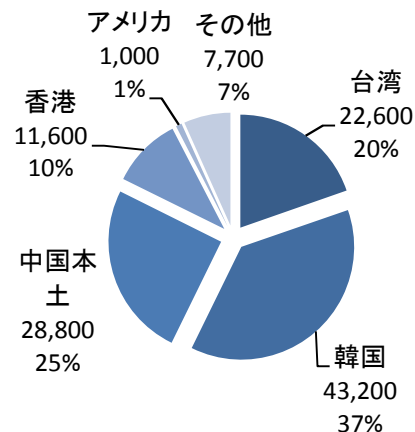
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	22,600 人	22,600 人	15,100 人	+ 7,500人	+49.7%	19.7%
韓国	43,200 人	43,200 人	31,800 人	+ 11,400人	+35.8%	37.6%
中国本土	28,800 人	28,800 人	8,500 人	+ 20,300人	+238.8%	25.1%
香港	11,600 人	11,600 人	9,000 人	+ 2,600人	+28.9%	10.1%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	700 人	+ 300人	+42.9%	0.9%
その他	7,700 人	3,400 人	2,800 人	+ 4,900人	+175.0%	6.7%
合計	114,900 人	110,600 人	67,900 人	+ 47,000人	+69.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	20,900 人	20,900 人	+38.4%	20.8%	1,700 人	1,700 人	皆増	11.6%
韓国	43,100 人	43,100 人	+35.5%	43.0%	100 人	100 人	皆増	0.7%
中国本土	20,400 人	20,400 人	+140.0%	20.3%	8,400 人	8,400 人	皆増	57.5%
香港	11,600 人	11,600 人	+28.9%	11.6%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+42.9%	1.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,300 人	3,300 人	+50.0%	3.3%	4,400 人	100 人	+633.3%	30.1%
合計	100,300 人	100,300 人	+49.0%	100.0%	14,600 人	10,300 人	+2333.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、年末年始が短い連休となった影響があったものの、成人の日を含む三連休が好調だったことや、各旅行会社主催によるイベント等があったことから、前年を上回った。
2月は、スポーツキャンプ見学や桜祭り等イベントが多く、各旅行会社の旅行商品の予約状況が良好なことや、下旬にはピーチアビエーションによる成田－那覇路線の新規就航が予定されていることから、好調に推移する見込み。

大阪

1月は、ANAの伊丹－那覇路線の拡充に加えて、JTAの関西－石垣路線や一部LCCを中心に好調に推移したことから、前年を上回った。
2月以降は、スポーツキャンプ見学や桜祭り等イベントが多く、各旅行会社による旅行商品の予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

福岡

1月は、一部団体旅行が好調であったことや、離島を中心とした旅行商品が好調であったこと等から、前年を上回った。
2月以降は、ANAによる福岡－那覇路線の期間増便や、修学旅行等の団体旅行や宿泊パッケージ等の旅行商品の予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

名古屋

1月は、一部旅行会社の販売が伸び悩んだものの、他の旅行会社と航空会社による旅行商品の造成・販売の取り組み強化が見られたことや、引き続き、LCCが好調に推移したこと等から、前年を上回った。
2月以降は、団体旅行が好調となっていることや、2月から3月にかけて宮古や与那国へのチャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

1月は、前年同月に比べて航空路線の拡充や、下旬には今年初の定期クルーズ船の寄港(昨年は3月)があったこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
2月は、春節時期の旅行需要の増に伴う臨時便に加えて、下旬にはピーチアビエーションによる台北－那覇路線の増便や、引き続き、定期クルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

韓国

1月は、昨年後半のLCCによる相次ぐ新規就航を含む航空路線の拡充に加えて、大韓航空による不定期便等があったことにより、単月で初の4万人台を記録した。
2月は、旧正月や春休み等の旅行需要増に伴う不定期便や那覇及び離島へのチャーター便が予定されていることに加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があることから、空路客を中心に順調に増加する見込み。

中国本土・北京

1月は、前年同月に比べて航空路線が拡充したことや、旅行商品の販売状況が好調であったこと等により、空路客を中心に増加し、前年を上回った。
2月以降は、春節時期の旅行需要増に加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、春節以降の旅行商品の販売状況も好調であること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

1月は、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便等による航空路線の拡充や、上海発クルーズ船の寄港があったことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。
2月は、春節時期の旅行需要増に伴う臨時便や青島－那覇間チャーター便が予定されていることに加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、上海発クルーズ船の寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

1月は、前年同月に比べて航空路線が拡充したことや、個人旅行の需要が好調であったこと等により、空路客を中心に増加し、前年を上回った。
2月は、春節時期の旅行需要増に伴う臨時便に加えて、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、コスタクルーズ社による香港発クルーズ船の初寄港が予定されていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

担当: 沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 川上(カワカミ) TEL 098-866-2763

平成28年（2016）2月 入域観光客数概況

2月の観光客数は、62万2,500人
対前年（H27）同月比 +7万1,600人、+13.0%
～2月の過去最高を更新、早くも累計で前年度の実績を上回った～

入域状況

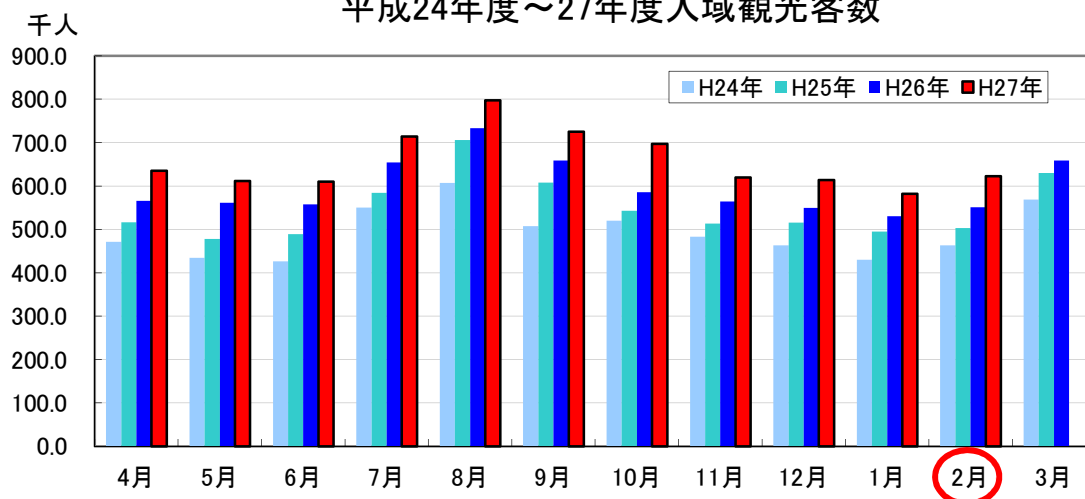
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	472,600 人	464,200 人	+ 8,400人	+ 1.8%	75.9%
外国客	149,900 人	86,700 人	+ 63,200人	+ 72.9%	24.1%
合計	622,500 人	550,900 人	+ 71,600人	+ 13.0%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	472,600 人	464,200 人	+ 8,400人	+ 1.8%	77.9%
外国客	133,800 人	82,400 人	+ 51,400人	+ 62.4%	22.1%
合計	606,400 人	546,600 人	+ 59,800人	+ 10.9%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

2月は、スポーツキャンプ見学や桜まつり等数多くのイベントがあったことや、各旅行会社による旅行商品の販売状況が良好なこと、下旬にはLCCによる成田－那覇路線の新規就航があったこと等から、前年を上回った。

3月は、各旅行会社による旅行商品の予約状況が良好なことや、下旬には岩国－那覇路線の新規就航等が予定されていることから、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

2月は、台湾・中国本土・香港の春節及び韓国の旧正月における旅行需要増に伴う不定期便・臨時便・チャーター便や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、空路・海路ともに好調に推移し、前年を上回った。

3月は、下旬から主要方面で航空路線の増便や、引き続き、クルーズ船の寄港回数が増加する予定となっていることから空路・海路ともに順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	225,400 人	225,600 人	△ 200人	△ 0.1%	47.7%
関西方面	95,500 人	91,100 人	+ 4,400人	+ 4.8%	20.2%
福岡方面	65,300 人	59,900 人	+ 5,400人	+ 9.0%	13.8%
名古屋	41,000 人	37,400 人	+ 3,600人	+ 9.6%	8.7%
その他	45,400 人	50,200 人	△ 4,800人	△ 9.6%	9.6%
合計	472,600 人	464,200 人	+ 8,400人	+ 1.8%	100.0%

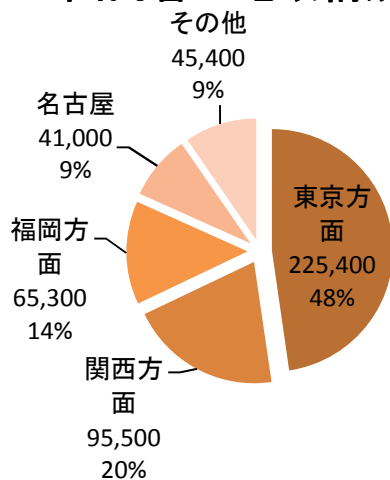
※国内海路客1,800人を含む(鹿児島1,700人、関西100人)

外国客 国籍別入域状況

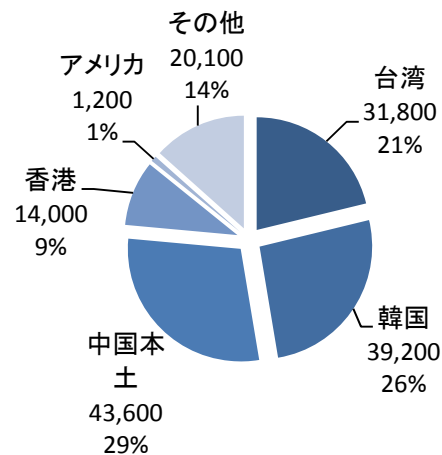
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	31,800 人	31,800 人	20,000 人	+ 11,800人	+59.0%	21.2%
韓国	39,200 人	39,200 人	26,100 人	+ 13,100人	+50.2%	26.2%
中国本土	43,600 人	43,600 人	21,000 人	+ 22,600人	+107.6%	29.1%
香港	14,000 人	14,000 人	10,400 人	+ 3,600人	+34.6%	9.3%
アメリカ	1,200 人	1,200 人	1,100 人	+ 100人	+9.1%	0.8%
その他	20,100 人	4,000 人	8,100 人	+ 12,000人	+148.1%	13.4%
合計	149,900 人	133,800 人	86,700 人	+ 63,200人	+72.9%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	23,500 人	23,500 人	+17.5%	23.1%	8,300 人	8,300 人	皆増	17.2%
韓国	39,200 人	39,200 人	+50.2%	38.5%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	22,600 人	22,600 人	+53.7%	22.2%	21,000 人	21,000 人	+233.3%	43.6%
香港	12,200 人	12,200 人	+19.6%	12.0%	1,800 人	1,800 人	+800.0%	3.7%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+25.0%	1.0%	200 人	200 人	△33.3%	0.4%
その他	3,200 人	3,200 人	+18.5%	3.1%	16,900 人	800 人	+213.0%	35.1%
合計	101,700 人	101,700 人	+36.5%	100.0%	48,200 人	32,100 人	+295.1%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、前半はやや低調な入込だったものの、スポーツキャンプ見学や桜まつり等数多くのイベントがあったことや、下旬にピーチアビエーションによる成田－那覇路線の新規就航があったこと等から、前年並みとなった。

3月は、各旅行会社の予約状況が良好なことや、下旬にはANAによる羽田－宮古路線の新規就航が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

2月は、離島を中心とした旅行商品の販売状況が良好であったことに加えて、引き続き、伊丹－那覇や神戸－那覇路線が好調に推移したこと等から、前年を上回った。

3月は、各旅行会社による離島を含めた旅行商品の予約状況が良好なことや、下旬にはANAによる関西－宮古路線の運航再開が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

福岡

2月は、宿泊パッケージ等の旅行商品の販売状況が好調であったことに加えて、ピーチアビエーションによる福岡－那覇路線の増便があったこと等から、前年を上回った。

3月以降は、各旅行会社の予約状況が良好なことや、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

2月は、一部旅行会社による、スポーツキャンプや離島等の旅行商品の販売状況が良好であったことや、引き続き、LCCが好調に推移したこと等から、前年を上回った。

3月は、春休みの旅行需要により予約状況が好調なことや、宮古や与那国への直行チャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

2月は、春節時期の旅行需要増に伴う臨時便に加えて、下旬にピーチアビエーションによる台北－那覇路線の増便や、定期クルーズ船の寄港があったこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

3月は、クルーズ船の寄港回数の増加、下旬の各航空会社による航空路線の増便や、旅行商品の予約状況も好調なこと等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

韓国

2月は、旧正月や春休み等の旅行需要増に伴う不定期便や那覇及び離島へのチャーター便があったことにより、空路客を中心に前年を上回った。

3月は、新学期の開始に伴うオフシーズンとなり、下旬には釜山－那覇路線の減便が予定されているものの、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、空路客を中心に好調に推移する見込み。

中国本土・北京

2月は、春節時期の旅行需要に加えて、個人・団体旅行ともに販売状況が好調であったこと等により、空路客を中心に増加し、前年を上回った。

3月以降は、お花見の旅行商品等、他方面との競合が懸念されるものの、3月下旬には中国国際航空による北京－那覇路線の増便があること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

2月は、春節時期の旅行需要増に伴う航空路線の臨時便に加えて、上海発クルーズ船の寄港回数が増加したことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

3月は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、空路客を中心に順調に増加する見込み。

香港

2月は、春節時期の旅行需要増に伴う航空路線の臨時便に加えて、香港発クルーズ船の寄港回数が増加したことにより、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

3月以降は、香港ドラゴン航空による航空路線の増便に加えて、サイクリング関連の旅行商品造成の取り組みや、引き続き、香港発クルーズ船の寄港予定があること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 川上(カワカミ) TEL 098-866-2763

平成28年（2016）3月 入域観光客数概況

3月の観光客数は、70万9,200人
対前年（H27）同月比 +5万200人、+7.6%
～3月の過去最高更新、年度は793万6,300人で3年連続過去最高～

入域状況

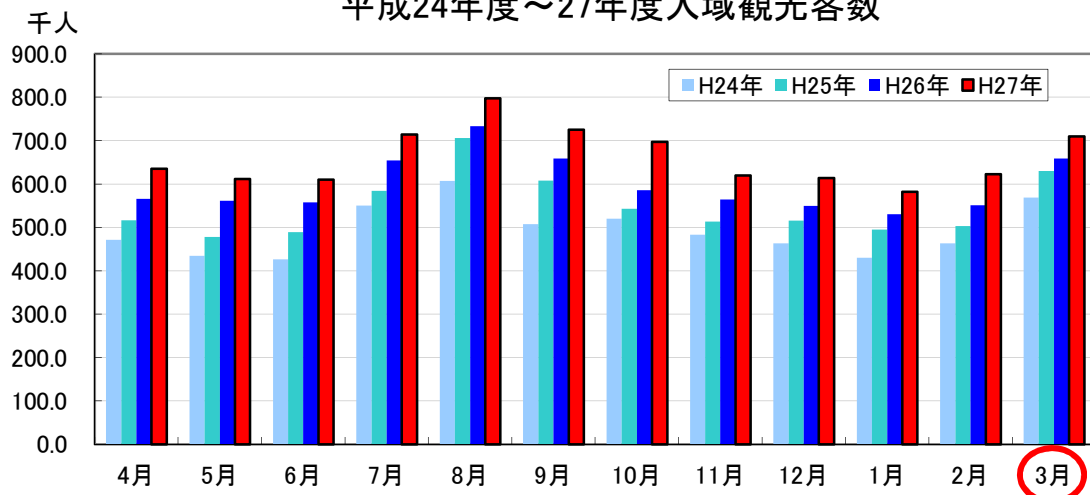
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	571,300 人	580,000 人	△ 8,700人	△ 1.5%	80.6%
外国客	137,900 人	79,000 人	+ 58,900人	+ 74.6%	19.4%
合計	709,200 人	659,000 人	+ 50,200人	+ 7.6%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	571,300 人	580,000 人	△ 8,700人	△ 1.5%	82.4%
外国客	121,700 人	73,600 人	+ 48,100人	+ 65.4%	17.6%
合計	693,000 人	653,600 人	+ 39,400人	+ 6.0%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

3月は、春休みの旅行需要があり、関西や福岡、名古屋方面の入込は好調であったが、東京方面において提供座席数が減少したこと等から、前年を下回った。

4月は、各旅行会社による旅行商品の予約状況が良好なことや、下旬には茨城－那覇路線の直行便再開が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

3月は、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、空路・海路ともに好調に推移し、前年を上回った。

4月以降は、台湾及び韓国を中心に航空路線の拡充があることや、10年ぶりに中城湾港へ外国クルーズ船が寄港することを含めたクルーズ船の寄港回数の増加が予定されていること等から、空路・海路ともに順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	271,500 人	279,600 人	△ 8,100人	△ 2.9%	47.5%
関西方面	119,400 人	117,700 人	+ 1,700人	+ 1.4%	20.9%
福岡方面	76,300 人	71,700 人	+ 4,600人	+ 6.4%	13.4%
名古屋	47,000 人	45,800 人	+ 1,200人	+ 2.6%	8.2%
その他	57,100 人	65,200 人	△ 8,100人	△ 12.4%	10.0%
合計	571,300 人	580,000 人	△ 8,700人	△ 1.5%	100.0%

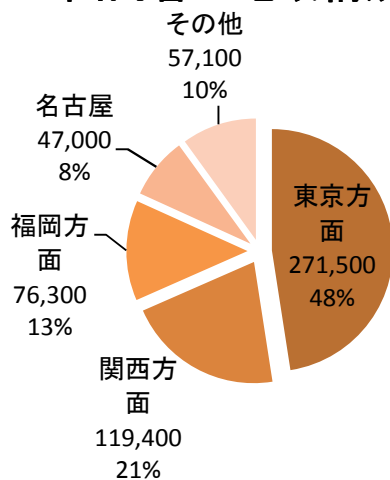
※国内海路客3,100人を含む(鹿児島2,600人、関西100人、横浜400人)

外国客 国籍別入域状況

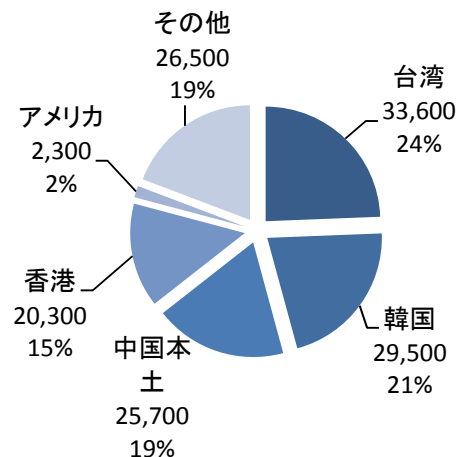
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度 (乗務員等含む)	H27年度 (乗務員等除く)	H26年度 (乗務員等含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	33,600 人	33,600 人	22,400 人	+ 11,200人	+50.0%	24.4%
韓国	29,500 人	29,500 人	19,100 人	+ 10,400人	+54.5%	21.4%
中国本土	25,700 人	25,700 人	10,300 人	+ 15,400人	+149.5%	18.6%
香港	20,300 人	20,300 人	14,300 人	+ 6,000人	+42.0%	14.7%
アメリカ	2,300 人	2,300 人	1,800 人	+ 500人	+27.8%	1.7%
その他	26,500 人	10,300 人	11,100 人	+ 15,400人	+138.7%	19.2%
合計	137,900 人	121,700 人	79,000 人	+ 58,900人	+74.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	24,100 人	24,100 人	+28.9%	25.9%	9,500 人	9,500 人	+156.8%	21.2%
韓国	29,300 人	29,300 人	+53.4%	31.5%	200 人	200 人	皆増	0.4%
中国本土	17,500 人	17,500 人	+69.9%	18.8%	8,200 人	8,200 人	皆増	18.3%
香港	16,500 人	16,500 人	+17.0%	17.7%	3,800 人	3,800 人	+1800.0%	8.5%
アメリカ	1,300 人	1,300 人	+44.4%	1.4%	1,000 人	1,000 人	+11.1%	2.2%
その他	4,400 人	4,400 人	+15.8%	4.7%	22,100 人	5,900 人	+202.7%	49.3%
合計	93,100 人	93,100 人	+39.2%	100.0%	44,800 人	28,600 人	+270.2%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は、各旅行会社の春休み旅行商品の販売状況は良好だったものの、一部航空会社において提供座席数が減少したこと等から、前年を下回った。

4月は、他方面との競合が懸念されるものの、各旅行会社の予約状況が良好なことや、羽田－宮古路線が就航したこと等から、堅調に推移する見込み。

大阪

3月は、各旅行会社の春休み旅行商品の販売状況が良好であったことに加えて、引き続き、伊丹－那覇や神戸－那覇路線が好調に推移したこと等から、前年を上回った。

4月は、各航空会社による団体旅行や、運航再開したANAの関西－宮古路線の予約状況が良好となっていること等から、好調に推移する見込み。

福岡

3月は、各旅行会社の春休み旅行商品の販売状況が良好であったことに加えて、スカイマークやピーチアビエーションによる福岡－那覇路線の拡充があったことから、前年を上回った。

4月は、各旅行会社の宿泊パッケージ等の旅行商品の予約状況が好調なことや、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

3月は、春休みの駆け込み需要もあり、旅行商品の販売状況が堅調であったことに加えて、引き続き、LCCが好調に推移したこと等から、前年を上回った。

4月は、名古屋－石垣路線の予約状況が好調なことや、宮古への直行チャーター便が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

3月は、各航空会社による航空路線の増便や、定期クルーズ船の寄港回数の増加があったこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

4月は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港予定があること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

韓国

3月は、韓国では新学期開始に伴うオフシーズンであったものの、前年同月に比べて航空路線の拡充や、各航空会社及び旅行会社による旅行商品販売の取り組み強化があったこと等により、空路客を中心に前年を上回った。

4月以降は、5月に大韓航空によるソウル－那覇路線の新規就航が予定されていること等から、空路客を中心に好調に推移する見込み。

中国本土・北京

3月は、お花見の旅行商品等、他方面との競合が懸念されたものの、北京及び天津－那覇路線ともに好調であったこと等から、空路客を中心に増加し、前年を上回った。

4月以降は、中国国際航空による北京－那覇路線が増便したこと等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

3月は、前年同月に比べて航空路線の拡充や、上海発クルーズ船が寄港したこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

4月は、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充や、上海発クルーズ船の寄港予定があること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

3月は、復活節（イースター）による旅行需要や、香港発クルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

4月以降は、引き続き、香港発クルーズ船の寄港予定があること等から、海路客を中心に好調に推移する見込み。